秋田県文化財調査報告書第60集

秋田県遺跡分布調査報告書

秋田県埋蔵文化財センター

1979・3

秋田県教育委員会

序

秋田県遺跡分布調査は，国営能代開拓建設事業，県営圃場整備事業，出羽丘陵総合開発事業（羽後地区），国営総合農地開発事業鹿角北東地区等圃場整備，畑地造成を主とする四大開発事業に伴う事前の分布調査で，開発計画地域内に所在する遺跡を確認し，その保護をはかることを目的としたものです。

国営能代開拓建設事業，県営圃場整備事業に伴う調査では，15遺跡の範囲を確認し，羽後地区の調査では今年度新たに17ヵ所，鹿角北東地区の調査では51年度から３ヵ年で216ヵ所の遺跡が発見され，今後これらの遺跡の保護には関係市町村教育委員会と連絡をとって万全を期したいと考えています。

最後になりましたが，羽後地区の調査をお引受けいただいた杉山一行，鈴木俊男両調査員，鹿角北東地区の調査をお引受けいただいた豊口芳郎，大里勝蔵，柳沢弘志，奥山豊の各調査員並びに県立十和田高等学校社会科同好会の方々をはじめ，御協力いただきました関係市町村教育委員会に対して心から感謝の意を表する次第です。

昭和５４年３月

秋田県教育委員会

教育長　畠　山　芳　郎

目　　次

序

カニガ台遺跡……1

根洗場遺跡……5

重兵衛台Ⅰ遺跡……8

重兵衛台Ⅱ遺跡……11

中田面遺跡……14

内林遺跡……17

外林遺跡……20

大野遺跡……23

矢石館遺跡（本郷遺跡）……27

蒲沼遺跡……31

内村遺跡……35

鵜沼城跡……39

宝竜台遺跡……45

大谷Ⅰ遺跡……50

大谷Ⅱ遺跡……55

出羽丘陵開発地域内

（羽後地区）遺跡分布調査……59

カニガ台遺跡

1．所　在　地

能代市坂形字カニガ台130 他

2．面　　積

56,300㎡

3．調査期間

昭和53年11月6日～11日

4．調　査　者

永瀬福男，池田憲和

5．遺跡の立地の特徴（現況）

東西にのびる丘陵の南縁に位置する。現況は水田，畑地，山林になっている。

6．範囲・時代・性格

範囲は，小土から鳥形に至る道路をはさんで，56,300㎡と広い。調査の結果，縄文土器，石器，土師器，須恵器が出土し，縄文時代と歴史時代の二時期に使用された複合遺跡であることがわかった。遺構（住居跡であろう）も検出されているので集落跡であろう。

7．地層（深さ）

水田は70cmと深いところもあるが，大部分は20cmほどの深さである。山林，畑地の深さは40cm前後である。

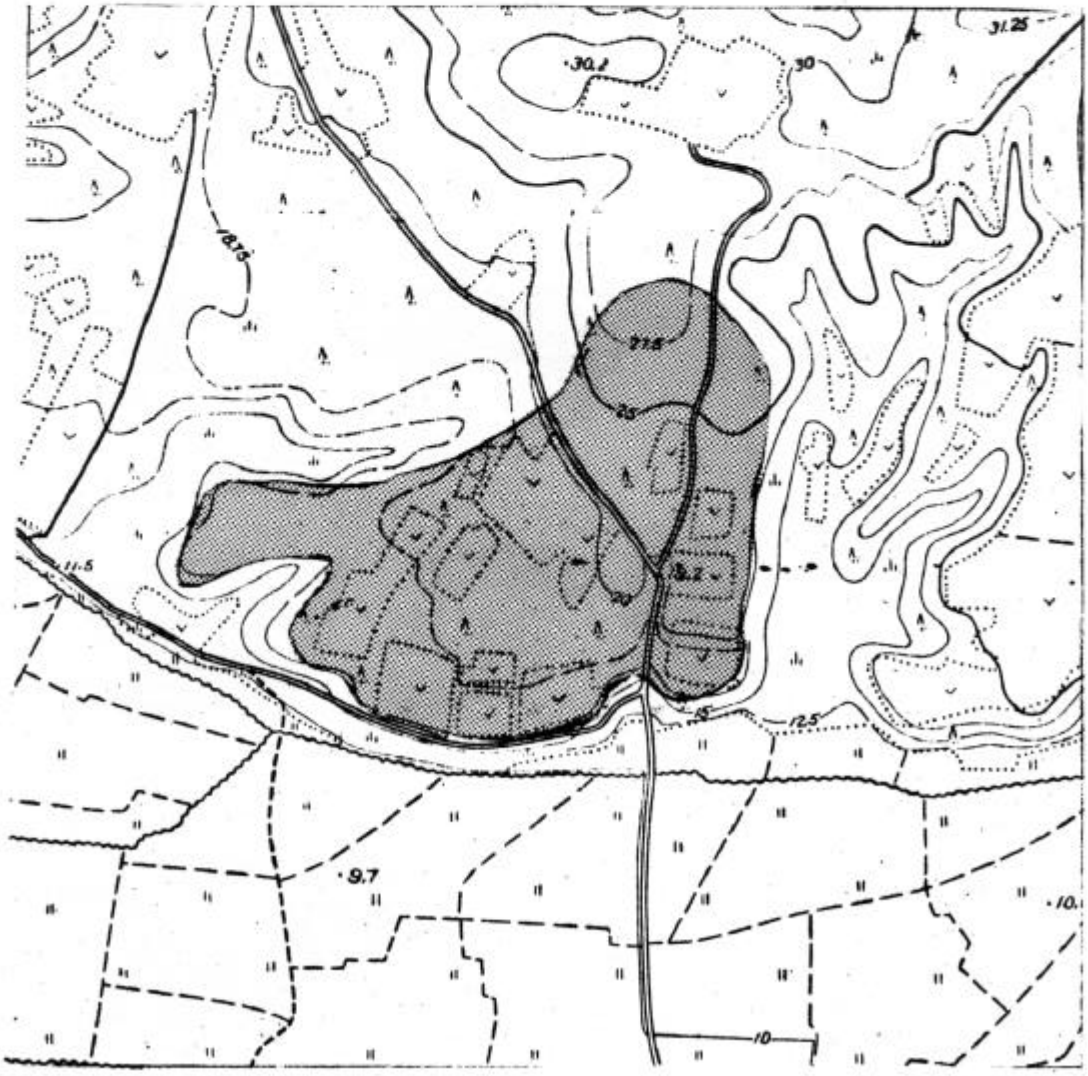
8．その他特記事項

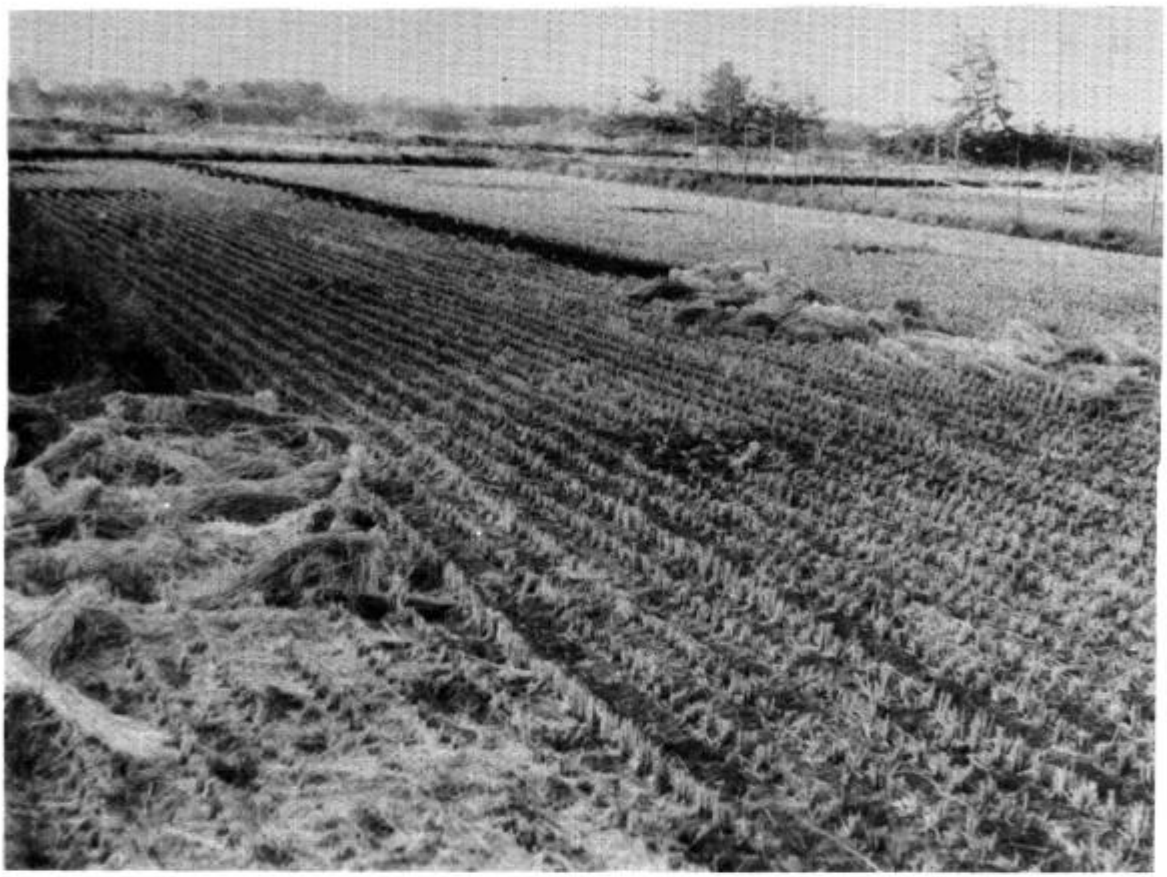
遺跡範囲の大部分をしめる水田は，地山まで削平され，遺跡は破壊されているものと考えられる。

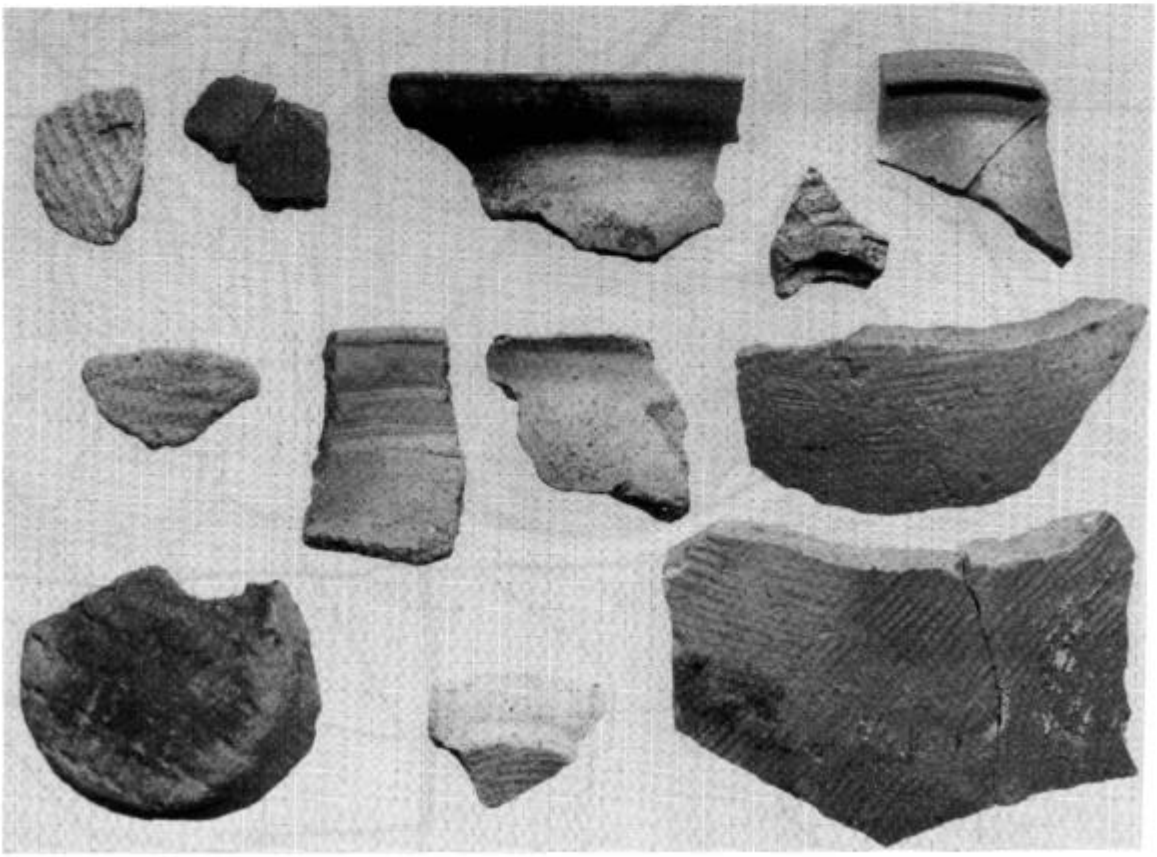
位　置　図

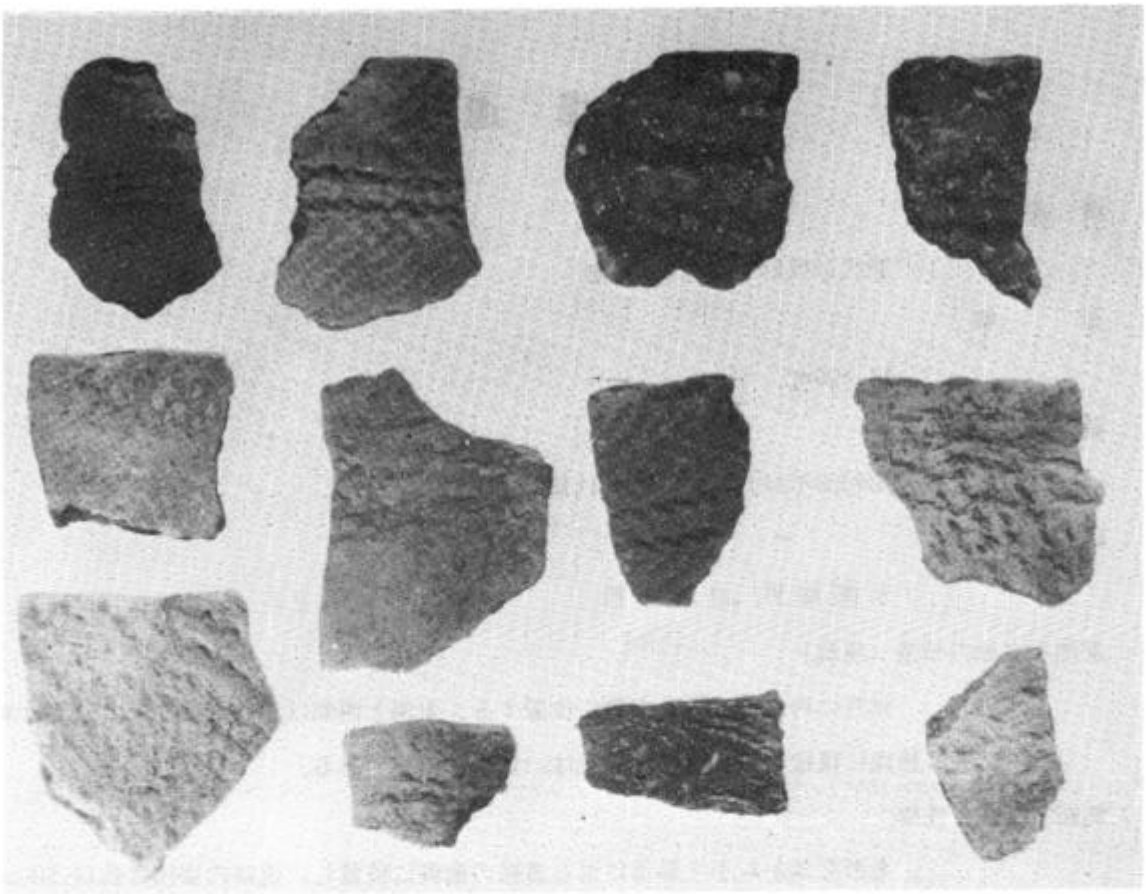
（1/25,000）

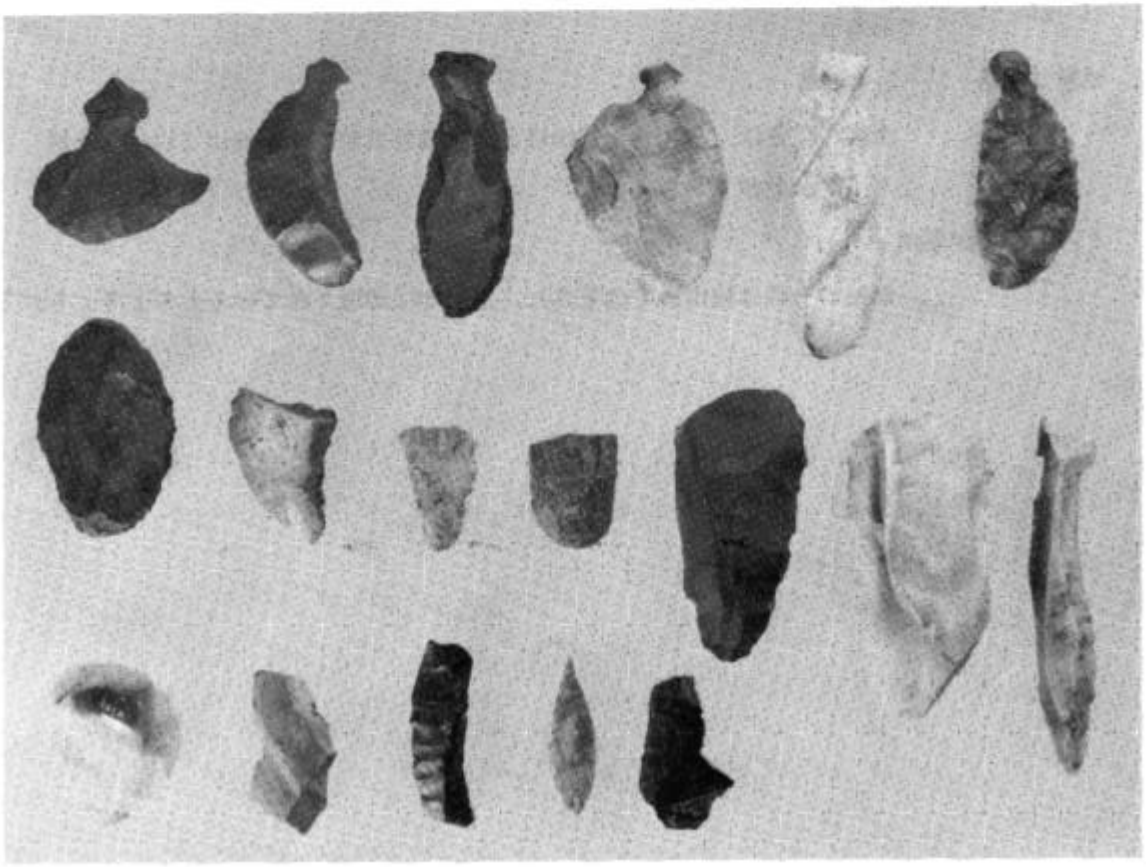
範　囲　図　（1/5,000）











根　洗　場　遺　跡

1．所　在　地

能代市坂形字根洗場36 他

2．面　　積

14,500㎡

3．調査期間

昭和53年11月6日～11月11日

4．調　査　者

永瀬福男，池田憲和

5．遺跡の立地の特徴（現況）

東西にのびる丘陵の南側に位置する。東側と西側は浅い沢になり，南側は沖積地に接続する。遺跡の現況は，畑地と山林である。

6．範囲・時代・性格

鳥形部落から小土部落に至る道路の南側に位置し，遺跡の面積は約14,500㎡と思われる。縄文時代前期の土器が多数出土し，石器類の出土も多い。集落跡であろう。

7．地層（深さ）

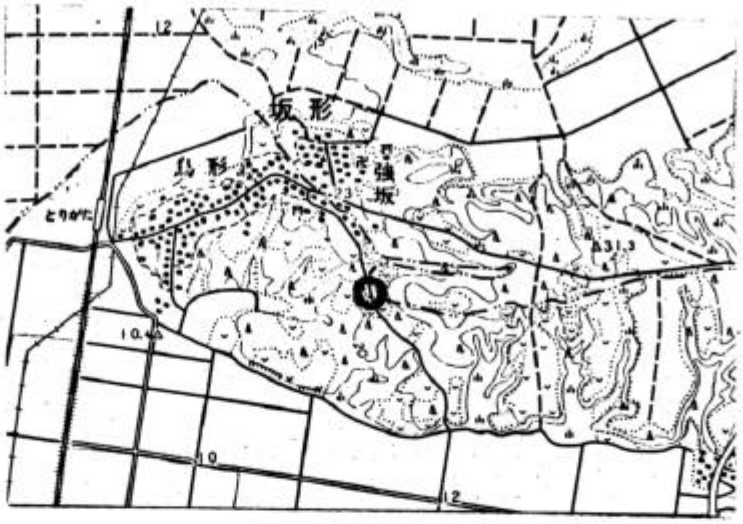
土層の深さは，耕作土が15cmほど，黒褐色土が30cm，地山（白色粘土層）となり，50cm前後である。

8．その他の特記事項

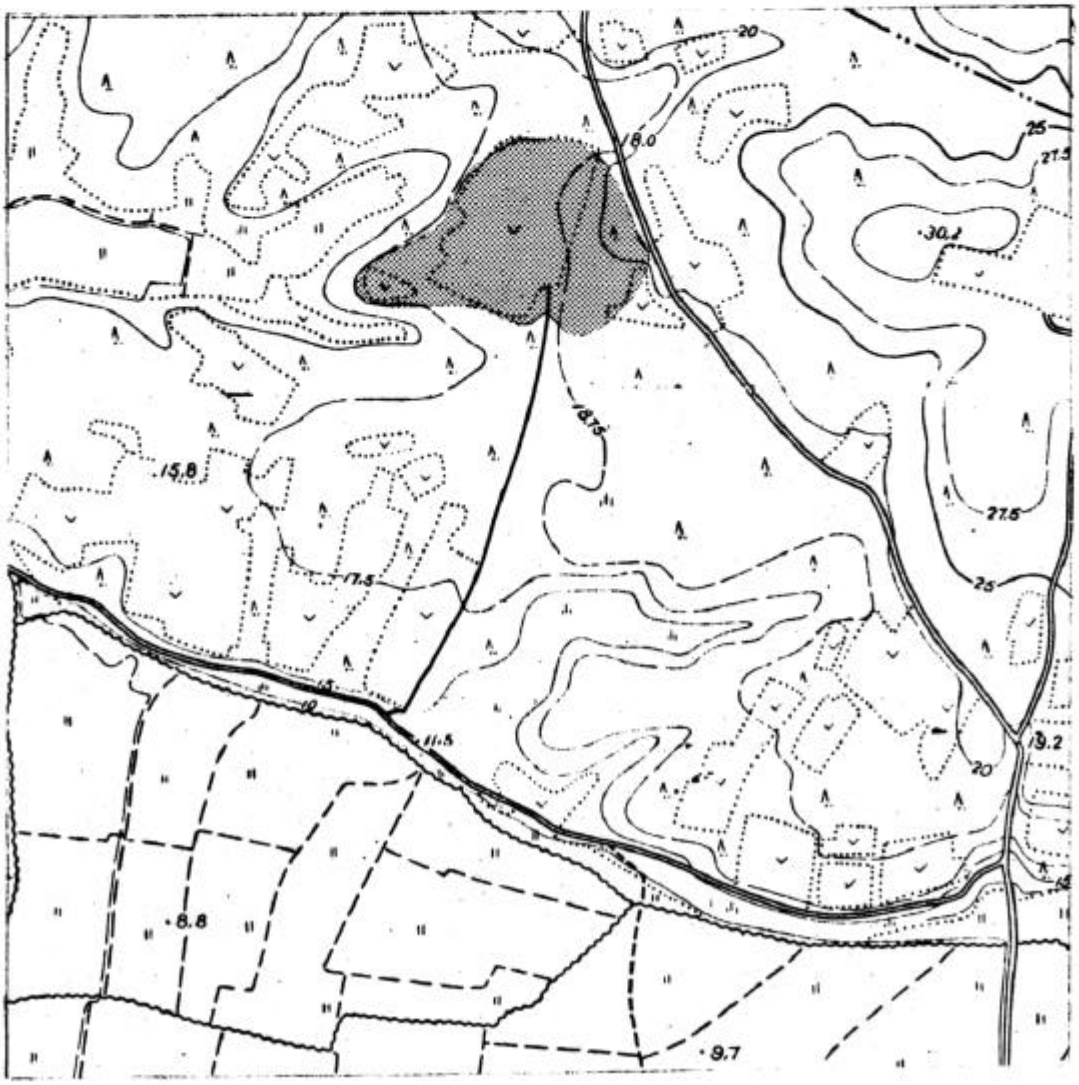
畑地の一部は地山まで削平され，遺構等は破壊されているものと考えられる。

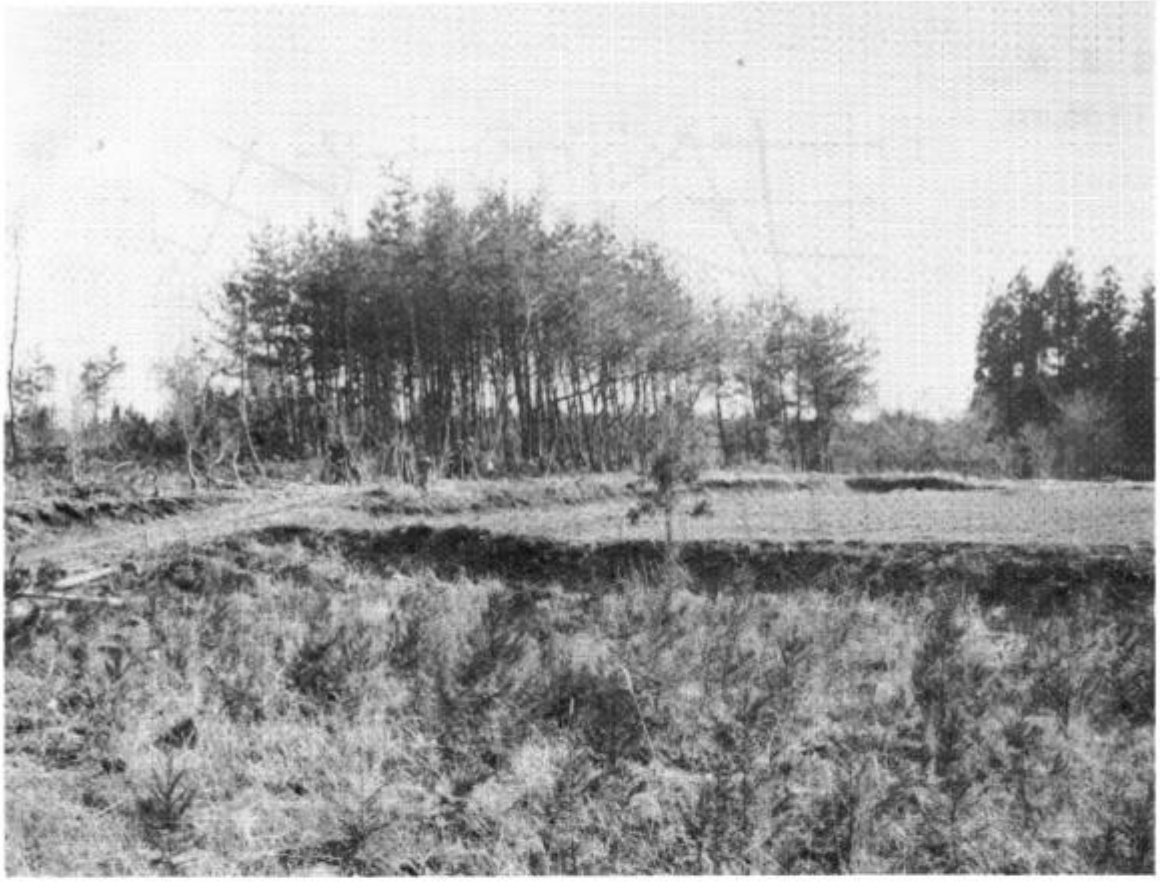
位 置 図

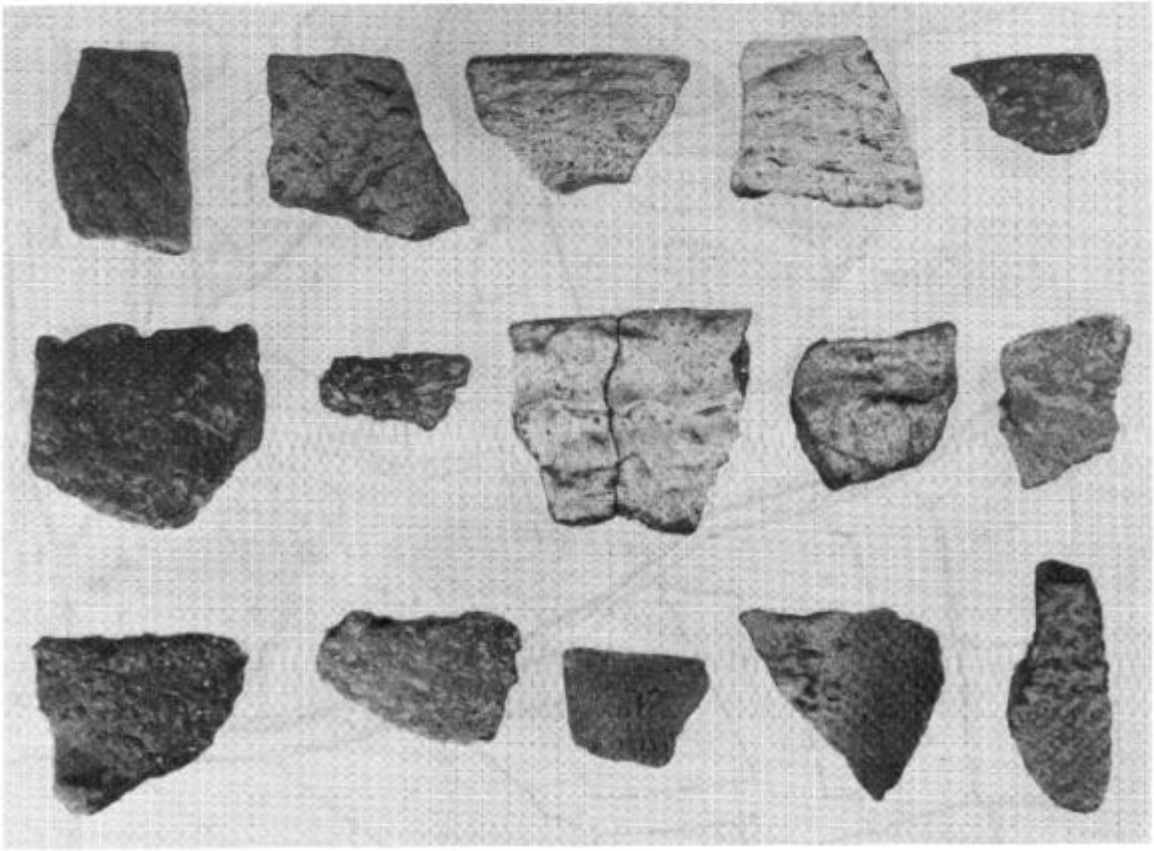
（1/25,000）



範 囲 図 （1/5,000）







重兵衛台Ⅰ遺跡

1．所　在　地

能代市坂形字重兵衛台10―61 他

2．面　　積

南北 230m，東西 70m　16,100m

3．調査期間

昭和53年10月30日～11月2日

4．調　査　者

富樫泰時，藤井安正

5．遺跡の立地の特徴（現況）

現状は畑地，この遺跡は白神山地よりのびる東雲台地西側に位置し，北より南へのびる舌状台地上にある。南側 700mほどの所に比八田部落があり，竹生川が西流している。また同方向1kmの地点に杉沢野遺跡がある。

6．範囲・時代・性格

遺跡は南にのびる標高31mほどの舌状台地にあり，縄文時代前期，弥生時代の遺跡が存在する。縄文時代の遺跡は台地東部に位置し，今回の調査では5棟の住居跡が検出され，集落跡であることが考えられる。また台地先端部においても住居跡1棟を検出した。遺跡推定範囲は南北 230m，東西45mの10,350㎡である。

弥生時代の遺跡は台地中央西部に位置し，今回の調査では住居跡1棟を検出した。遺跡推定範囲は南北55m，東西40mの 2,200㎡である。

遺跡全体では台地中央部，先端部の南北 230m，東西70mの16,100㎡と推定される。

位 置 図

（1/25,000）

範 囲 図 （1/5,000）

重兵衛台II遺跡

1．所　在　地

能代市坂形字重兵衛台10—13 他

2．面　　積

〔37,000㎡〕

3．調査期間

昭和53年11月13日～18日

4．調　査　者

藤井安正，佐々木孝明

5．遺跡の立地の特徴（現況）

現況は畑地，遺跡は東雲台地より北から南にのびる標高27mの舌状台地上に位置するもので，沢をへだてて重兵衛台I遺跡が存在する。また東側 600mの位置に比八田部落があり，南側 500mの所を竹生川が西流する。

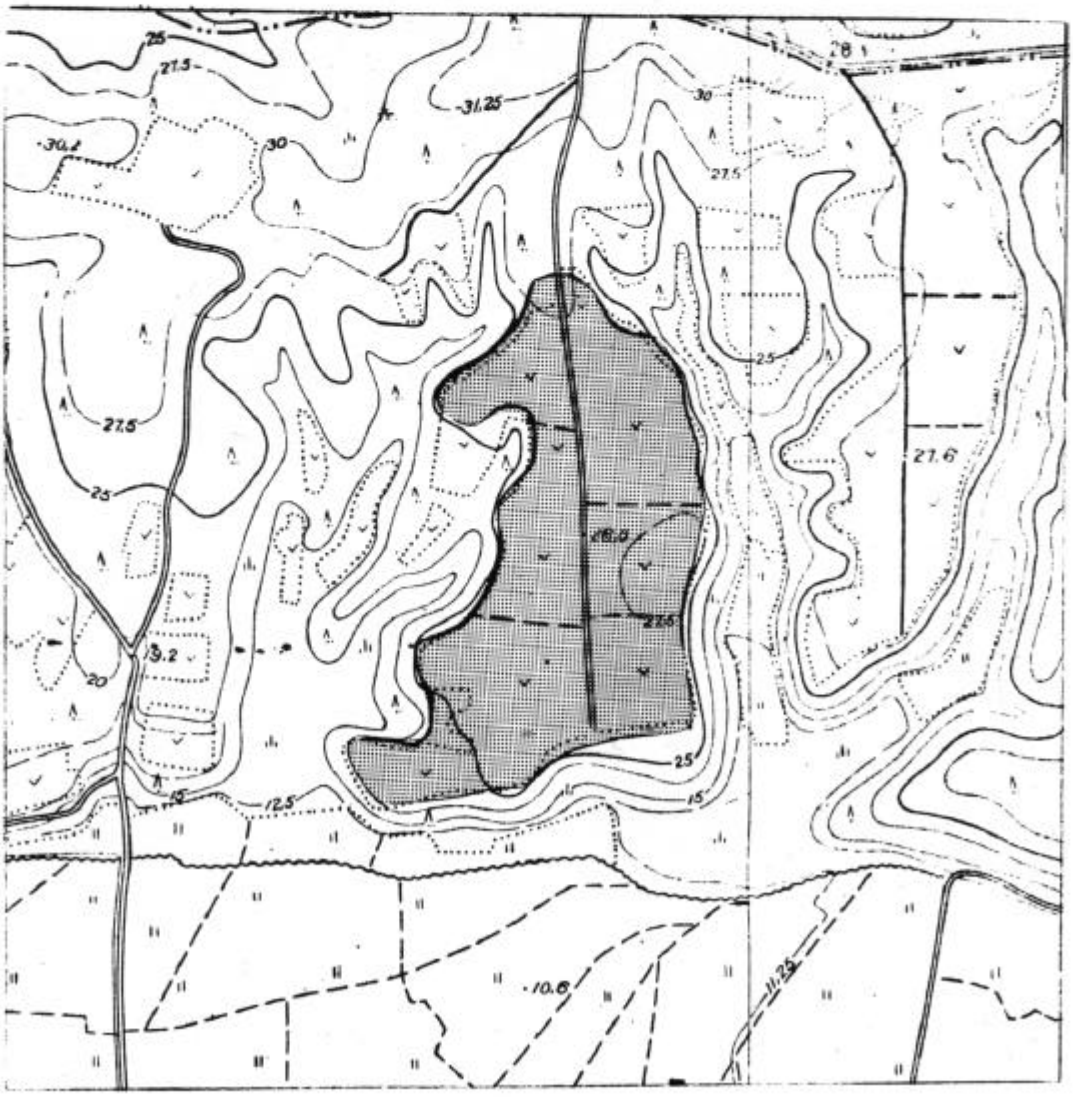
6．範囲・時代・性格

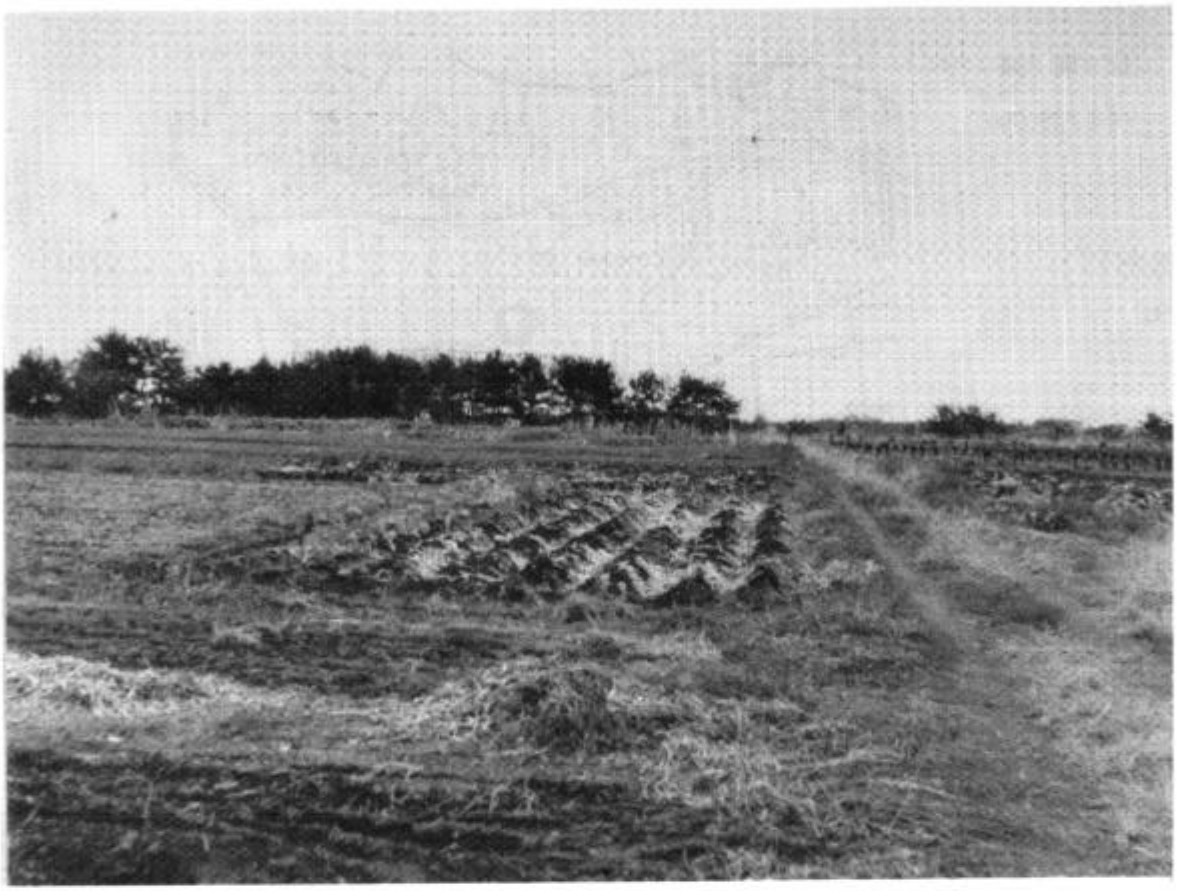
今回の調査では住居跡8棟，地床炉2基の検出をみた。時代は土師器，須恵器を中心とした平安時代前期頃のものと推定される。また遺跡の範囲は台地先端部，中央部にわたるものであり，総面積37,000㎡と推定される。また，台地上において，三ヵ所の集落があるものと考えられる。

位 置 図

（1/25,000）

範 囲 図 （1/5,000）





中　田　面　遺　跡

1．所　在　地

山本郡峰浜村坂形字中田面192 他

2．面　　積

28,200㎡

3．調査期間

昭和53年11月13日～18日

4．調　査　者

柴田陽一郎，栗沢光男

5．遺跡の立地の特徴（現況）

青森県境の白神山地の南側に位置する舌状台地である。遺跡は北から南に緩く傾斜している。標高は約31.7mである。

6．範囲・時代・性格

遺跡の範囲は台地上全部である。出土遺物は土師器，須恵器片で，須恵器杯のヘラ切り底のものが2点検出された。遺構は住居跡と思われるもの9，溝状遺構と思われるものが4ヵ所検出された。

時代は平安時代前期で台地全体に住居跡があるものと思われる。

7．地層（深さ）

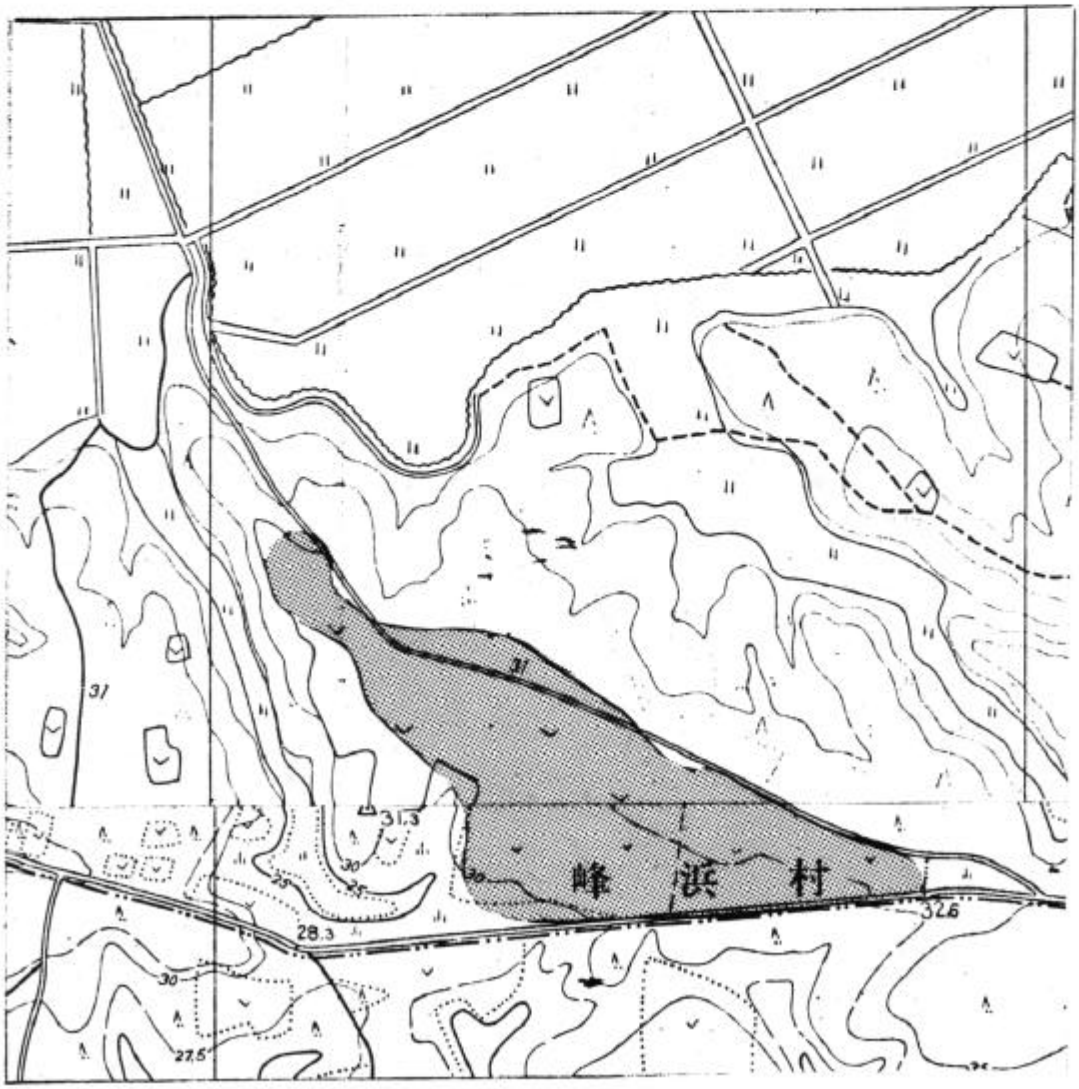
北側は第Ⅰ層を掘り下げたところで遺構が確認された。南側は第Ⅱ層を掘り下げたところで確認された。

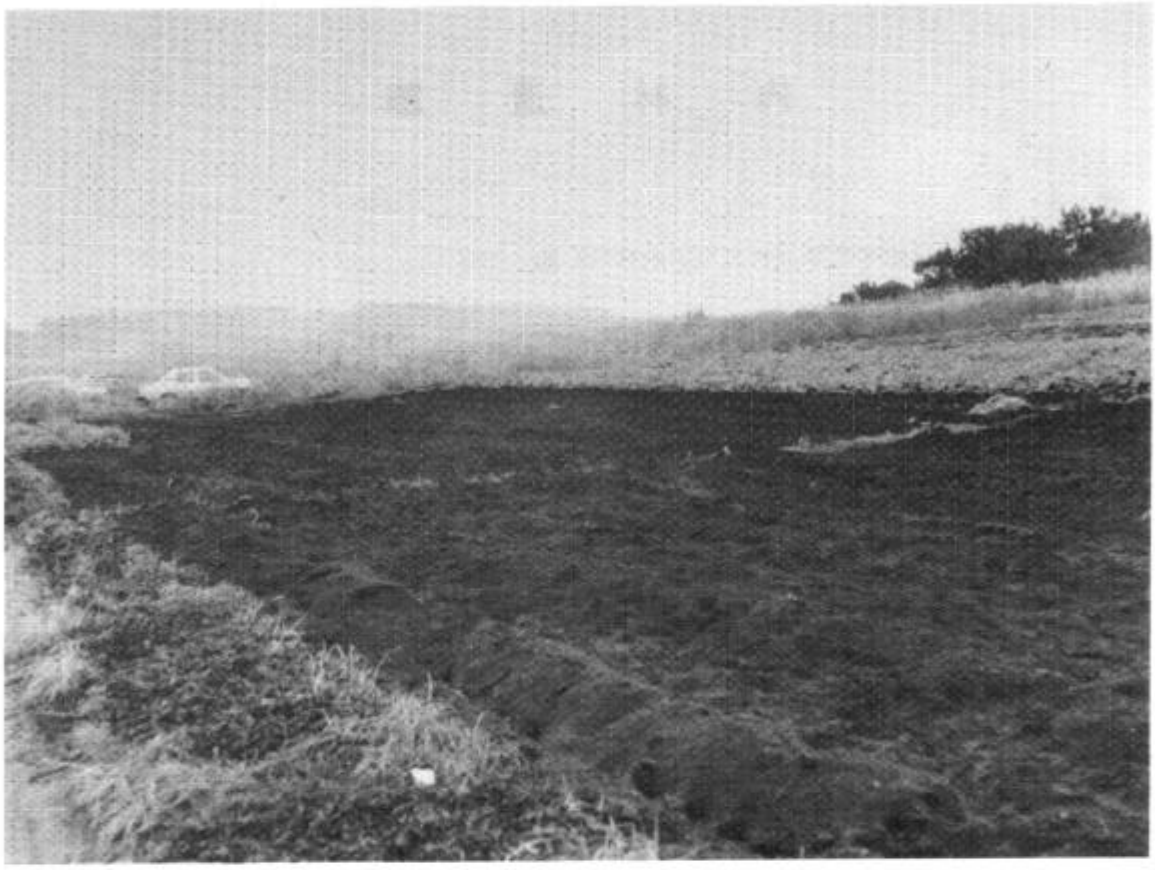
第Ⅰ層は15cm位の黒褐色土（5YR2/2）で，第Ⅱ層は褐色粘質土（10YR4/6）で15cm位で，深さは約30cmである。

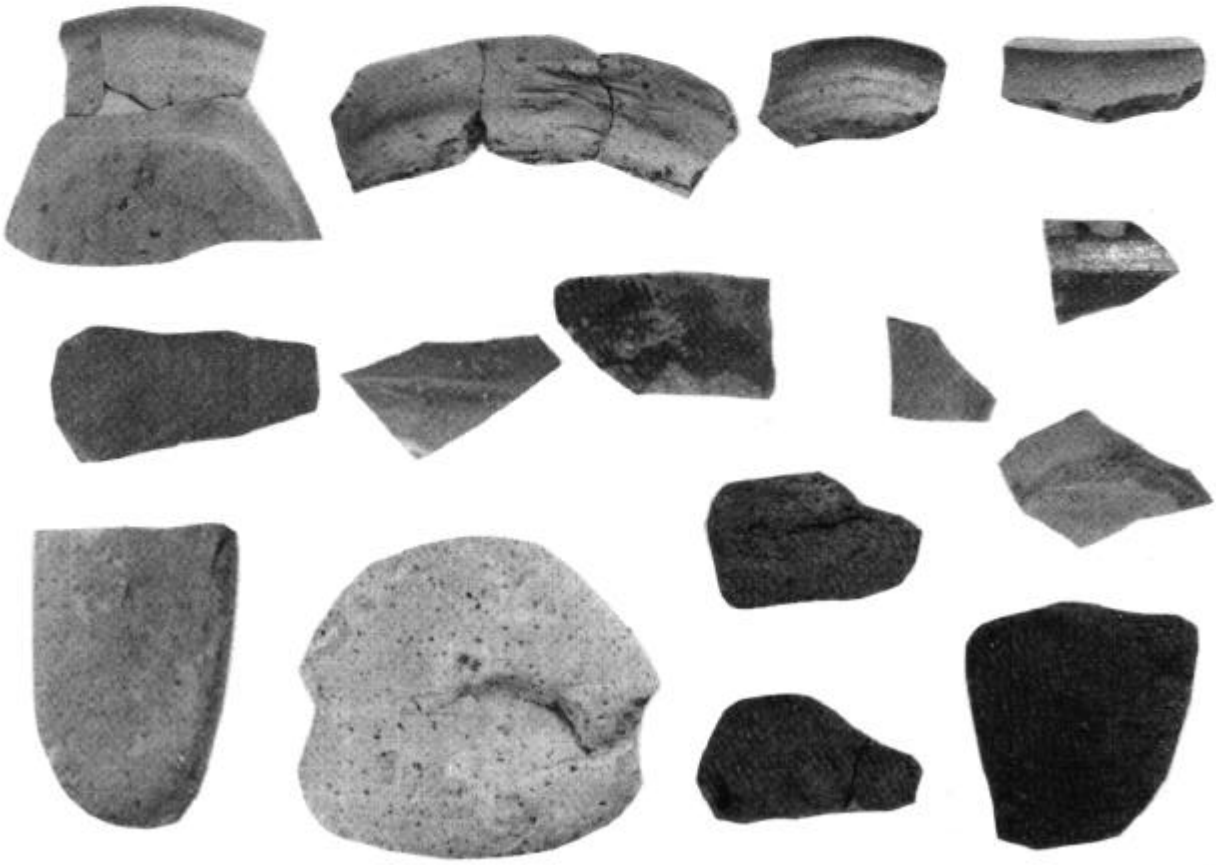
位 置 図

（1/25,000）

範 囲 図 （1/5,000）







内　林　遺　跡

1．所　在　地

山本郡峰浜村石川字内林118 他

2．面　　積

約31,600m²

3．調査期間

昭和53年11月6日～11月11日

4．調　査　者

岩見誠夫，高橋忠彦

5．遺跡の立地の特徴（現況）

原野と一部に杉・檜などの立木の残っている雑木林跡である。南東に緩く傾斜するほぼ平坦な地形で，米代川以北において日本海岸に発達した海成段丘の高位のものである。

6．範囲・時代・性格

標高47m～52mの外林，内林地区で最高位を示す所で，現地表面に連続して走るくぼみの見られる小規模な空濠に囲まれた範囲といえる。遺跡内の試掘個所から青磁片，古代末の土師器片が出土していることから，古代末～中世にかけての館もしくはそれに準ずる遺跡と思われる。

調査による検出遺構は，空濠，溝状遺構，ピットがある。

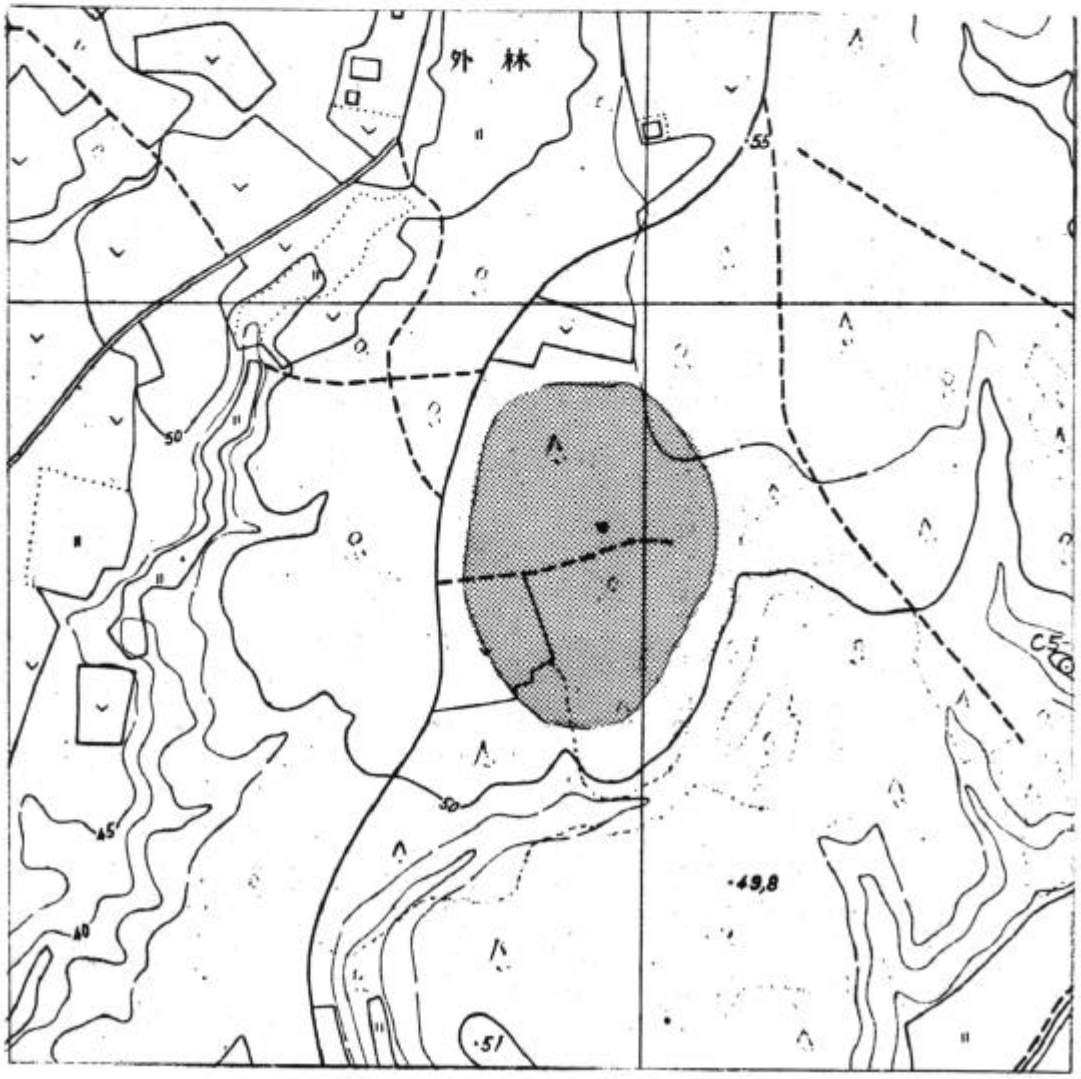
7．地層（深さ）

遺跡内の地区によってその深さが異なるが，30～70cmの黒色土下に遺構が存在する。

位 置 図

（1/25,000）

範 囲 図 （1/5,000）



外　林　遺　跡

1．所　在　地

山本郡峰浜村石川字外林150

2．面　　積

約 7,000㎡

3．調査期間

昭和53年10月23日～28日

4．調　査　者

富樫泰時，田口　都

5．遺跡の立地の特徴（現況）

秋田県と青森県の県境の白神山地の一部を構成する標高約46.0～46.6mの台地中央部に位置する。この台地の南北を竹生川の支流が流れ遺跡の南側には，この台地に入りこむ多くの沢が1つが入りこんでいる。現況は畑である。

6．範囲・時代・性格

南側に沢が入りこむ狭い台地上にあり，範囲は約 7,000㎡と考えられる。ここからは，縄文時代前期の土器，石器と住居址とおぼしき遺構が検出されている。

この地点よりさらに北西へ約50m程離れた所でも少量の遺物とともに住居址らしい遺構がみつかっている。

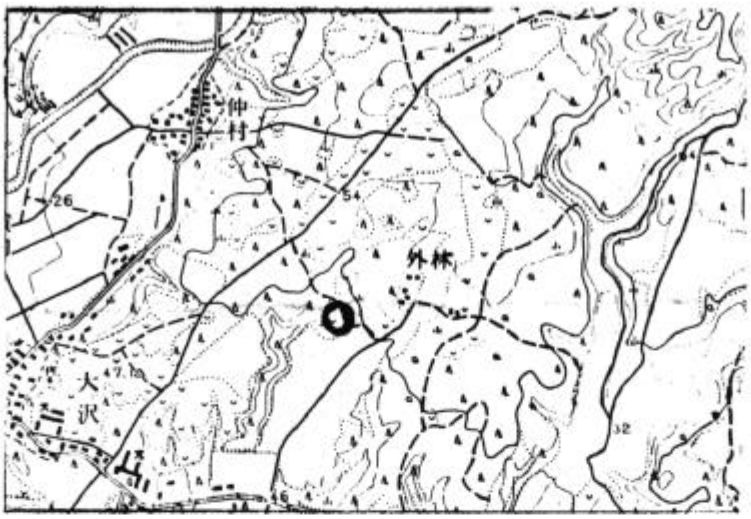
7．地層（深さ）

地山までの深さは，40～50cmで，上半部は耕作によって攪乱を受け，その下は旧表土の黒色土層，明褐色土層と続いている。

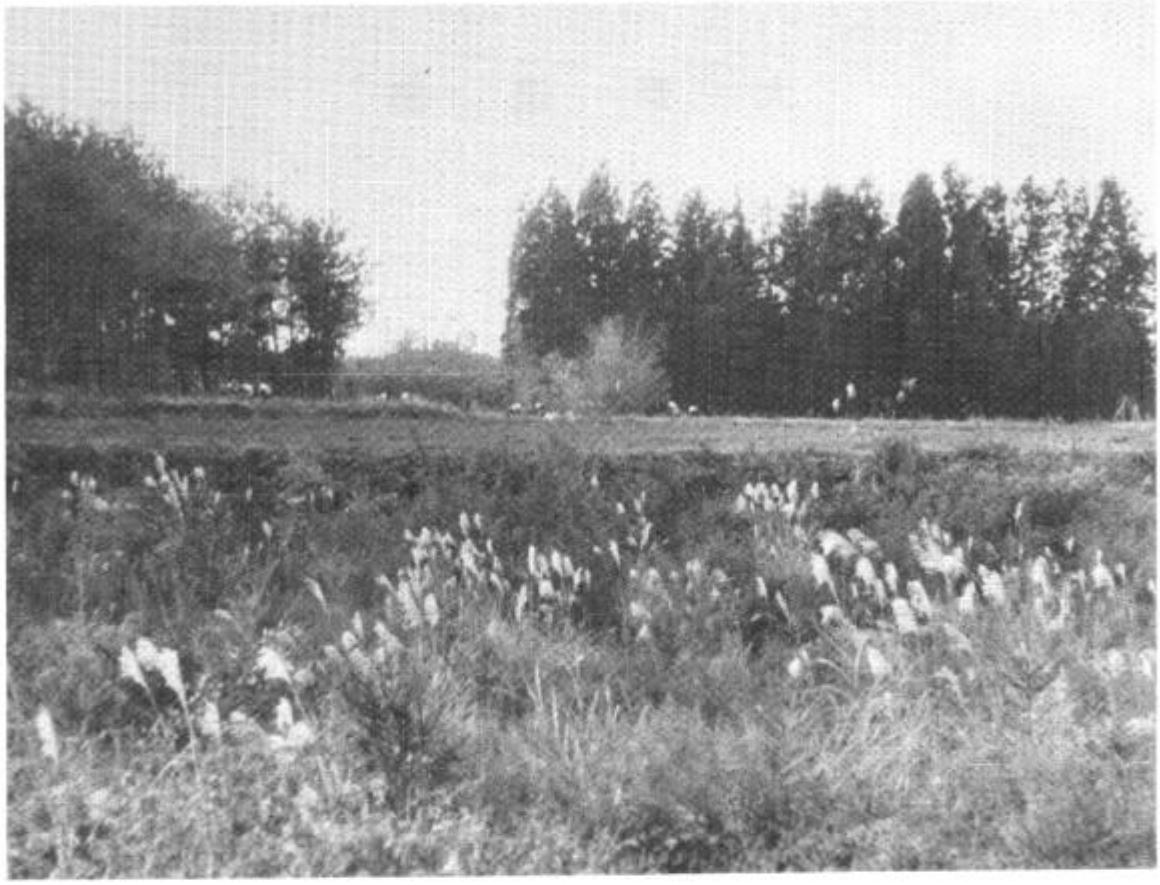
なお地山は白色の粘土層である。

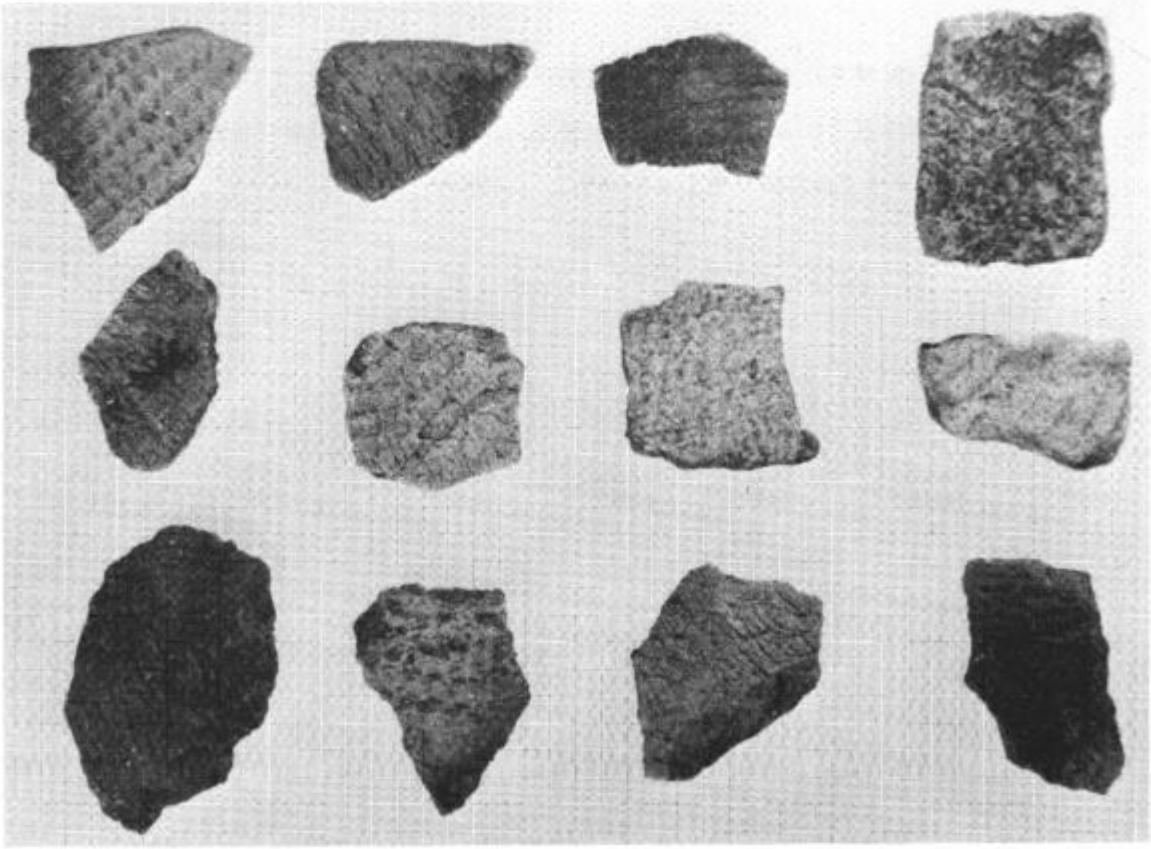
位 置 図

（1/25,000）



範 囲 図 （1/5,000）





大　野　遺　跡

1．所　在　地

能代市荷八田字大野

2．面　　積

約20,000m²

3．調査期間

昭和53年10月23日～28日

4．調　査　者

橋本高史，池田憲和

5．遺跡の立地の特徴（現況）

東雲台地の南端部に位置し，現況は畑，苗圃，原野になっている。

6．範囲・時代・性格

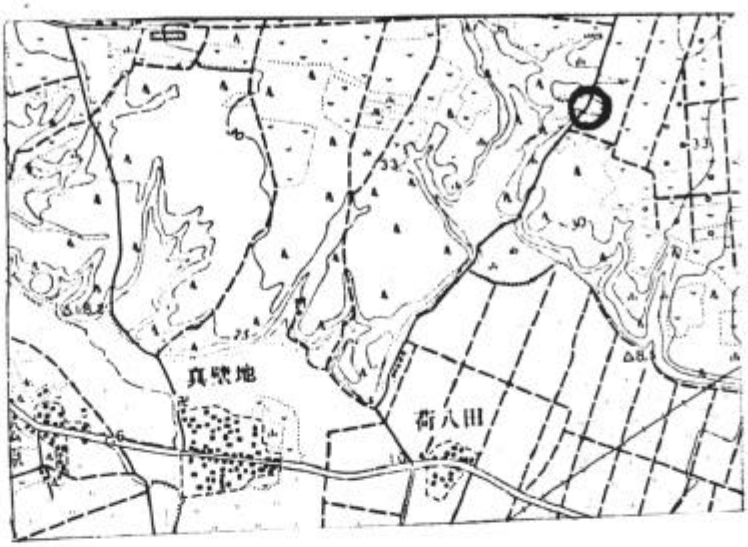
昭和30年代後半に国学院大学の手ですでに発掘調査が行われており，縄文時代晩期の遺跡として周知のものであった。遺物包含層はあつく，遺物も土器，石器等多量であり，丘陵最頂部には集落跡の存在も予想される。

7．地層（深さ）

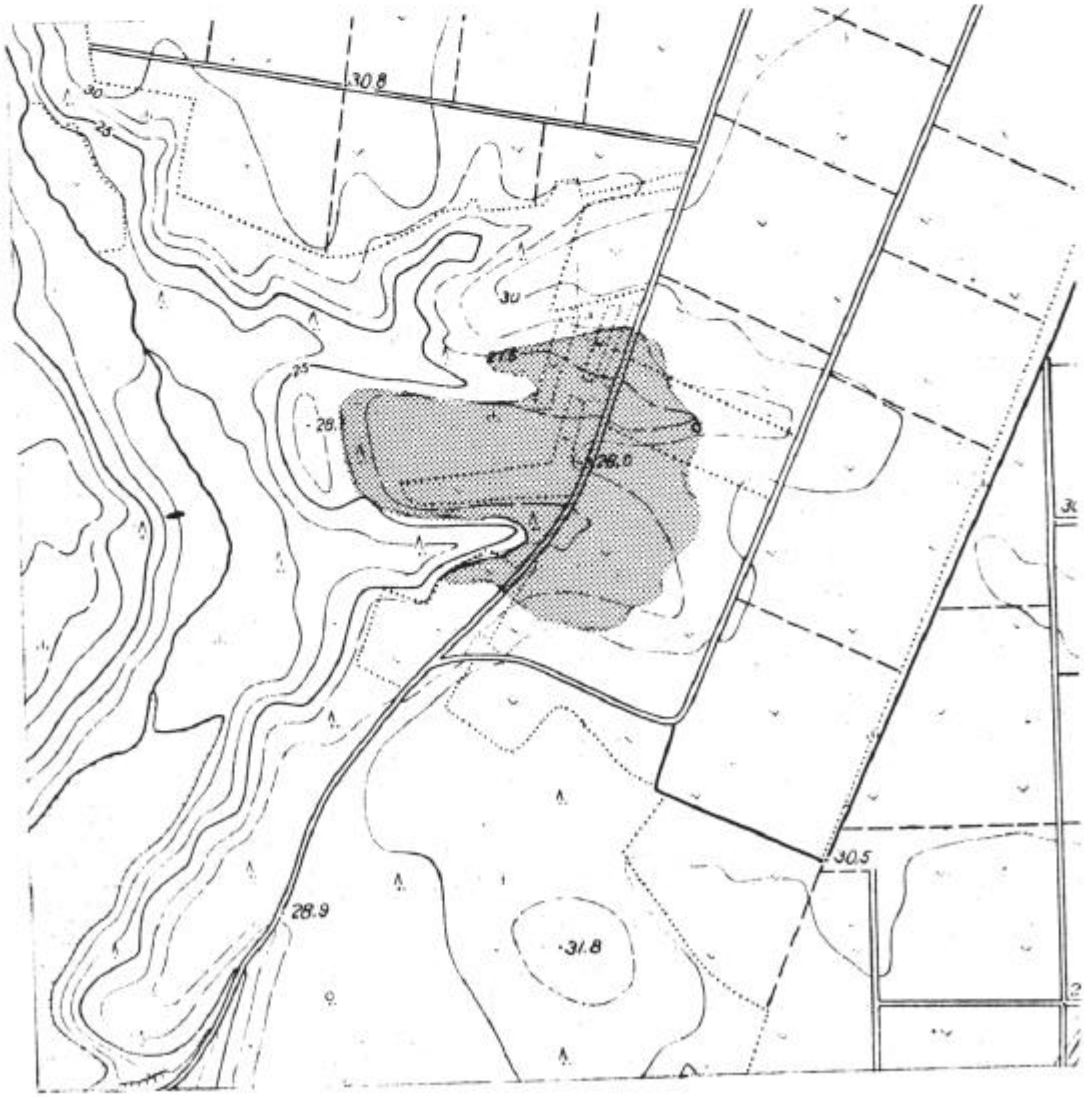
開墾された苗圃や畑の地表面には遺物が広く散布している。遺物包含層は地表面直下からはじまる黒色土層で，丘陵頂部では約20～30cm，丘陵縁部では約1～1.3mの深さをもっている。

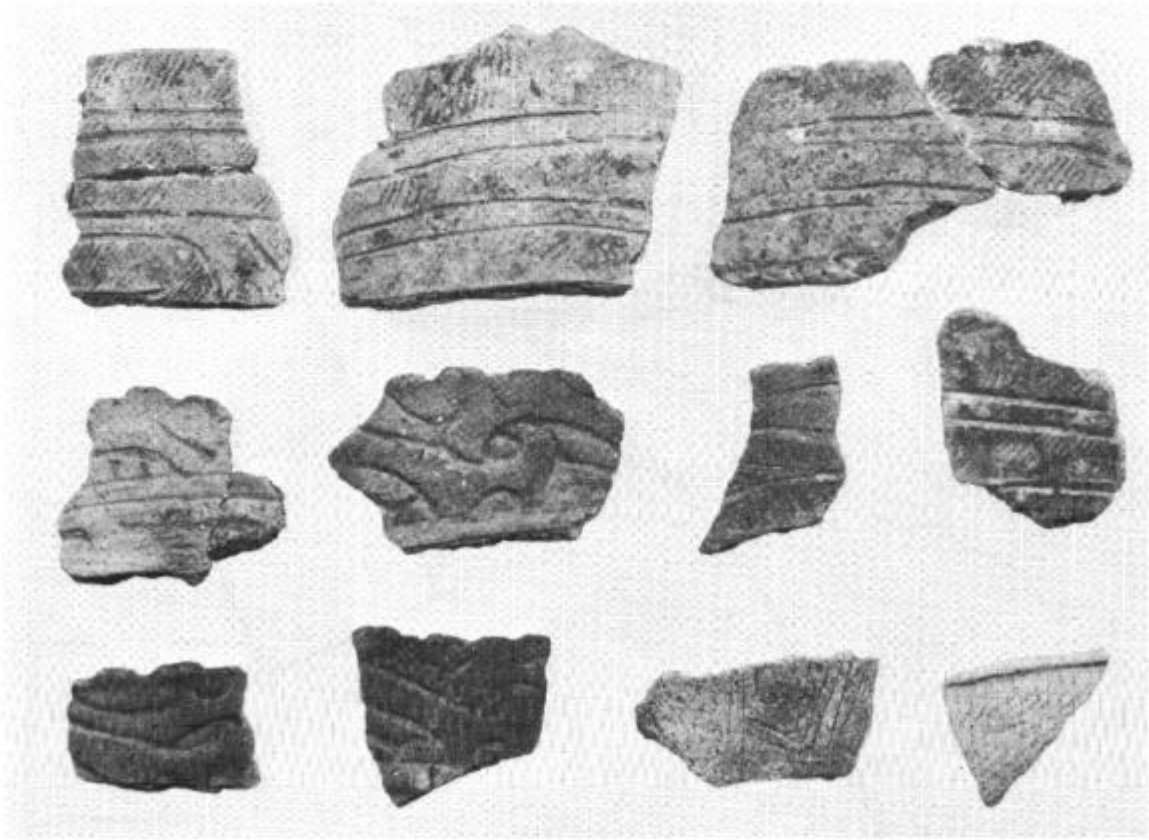
位　置　図

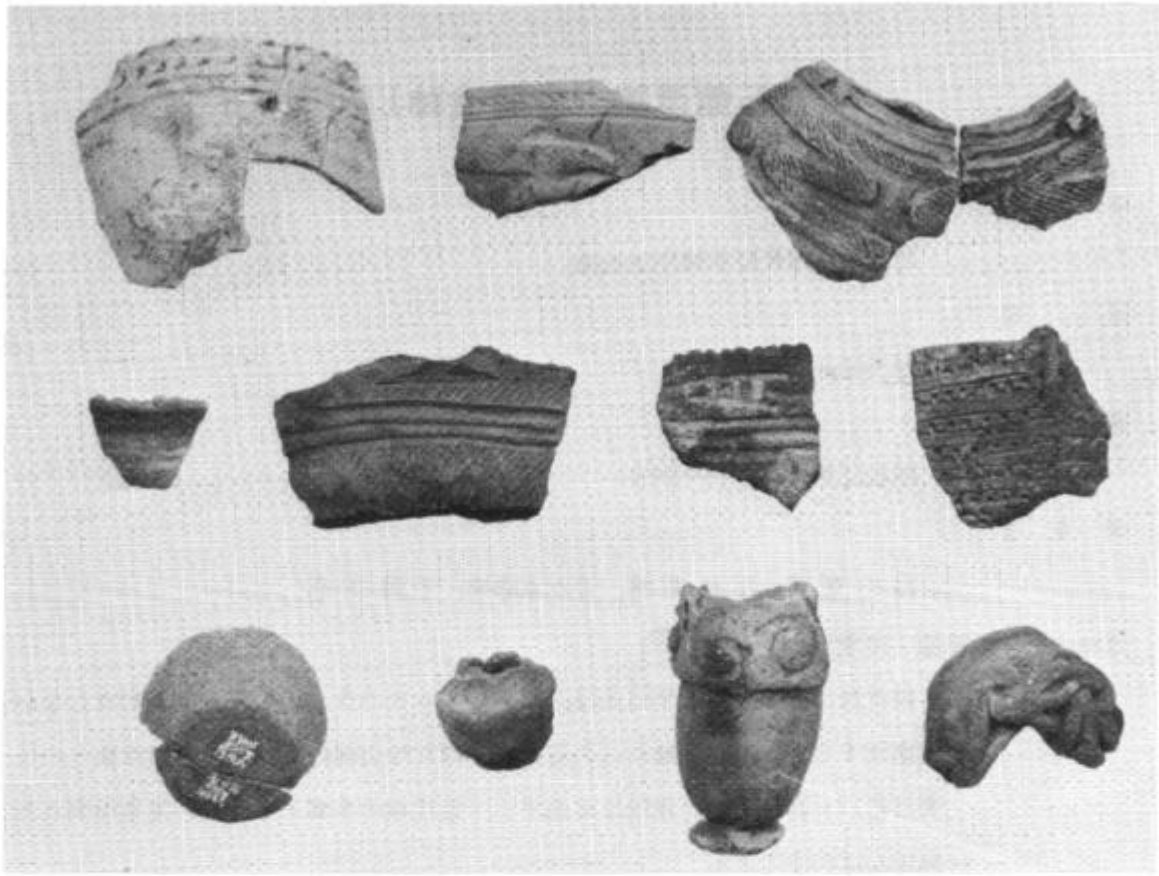
（1/25,000）

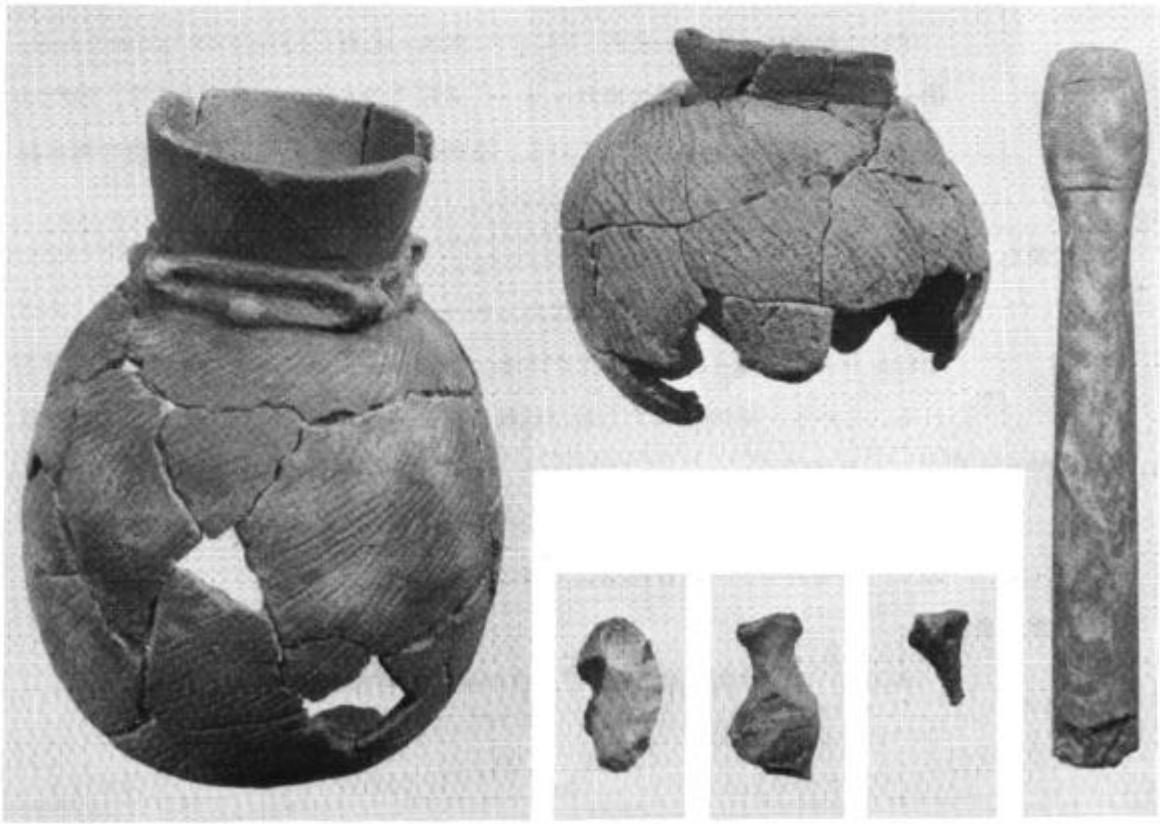


範　囲　図　（1/5,000）









矢石館遺跡（本郷遺跡）

1．所　在　地

北秋田郡田代町本郷字矢石館

2．面　　積

28,000m²

3．調査期間

昭和53年10月23日～28日

4．調　査　者

畠山憲司，小松昭雄，佐々木孝明，平野芳昭

5．遺跡の立地の特徴（現況）

田代岳に源を発する早口川は，両岸に4～5のきれいな段丘面を形成しながら南流する。矢石館遺跡はこの右岸第3段丘縁辺部に位置し，現川水面との比高は約17～20mある。現況は町道早口・田代線の本郷・中仕田の集落中間点西側田んぼの中である。

6．範囲・時代・性格

遺跡の範囲は（南東－北西）280m×（南西－北東）100mの28,000m²である。出土土器は縄文時代晩期大洞B～B・C式相当のものが大部分であり，時代は縄文時代晩期前葉を中心としている。遺跡は組石棺等を持つ墓域を含む集落跡と考えられる。

7．地層（深さ）

地点により若干異なるが，表土から80～100cmは真黒のクロボク土で，その下にシラスを主体とする地山土がある。遺物は表土から30～60cmの間に包含される。しかし，耕地整理で上面が移動された地点では20～30cmで地山に達する。

8．その他特記事項

昭和27・28年，武藤鉄城，奥山潤の両氏によって，組石棺5基が発見されており，昭和34年1月7日県指定史跡になっている。

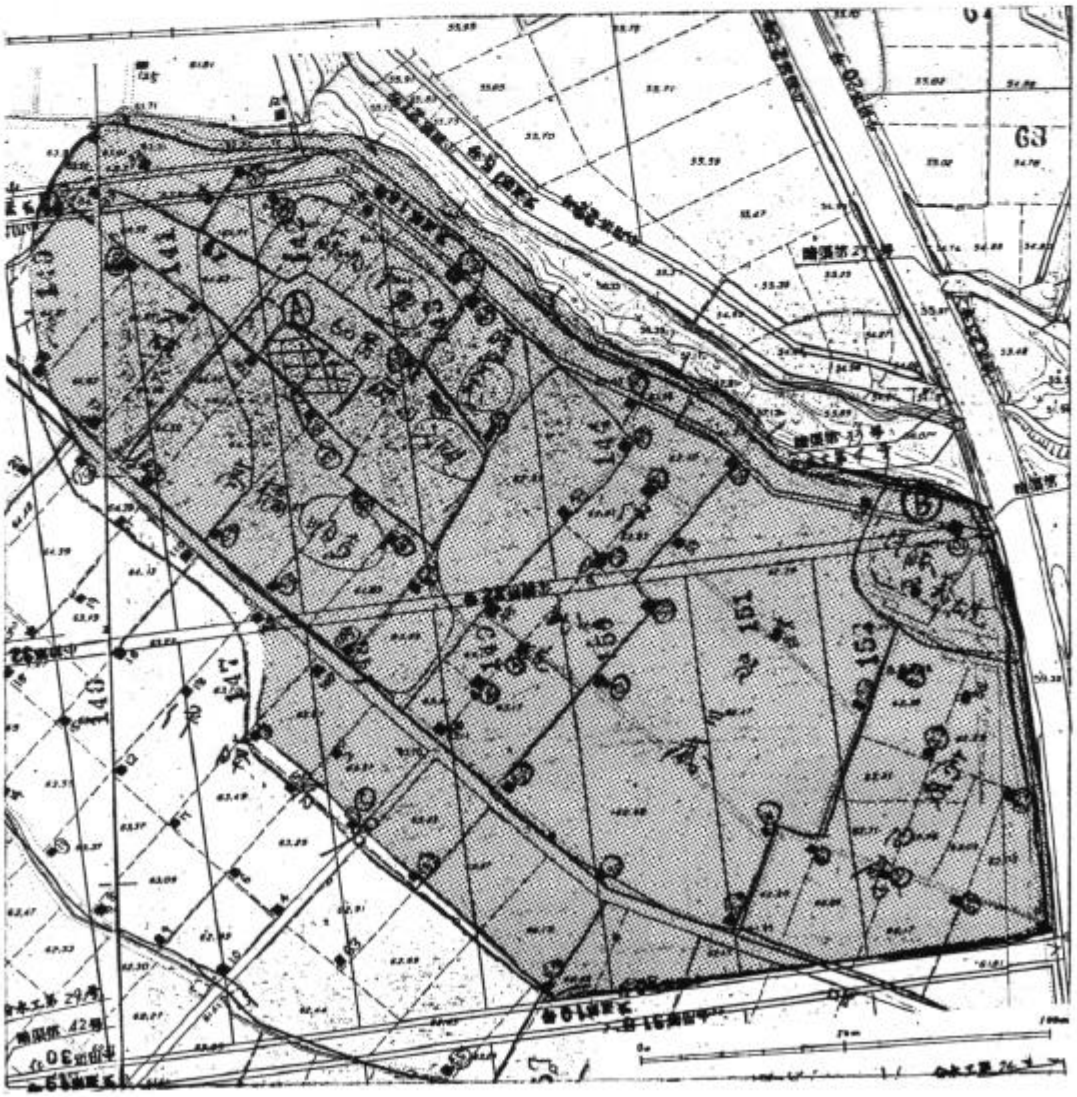
9．参考文献・事項

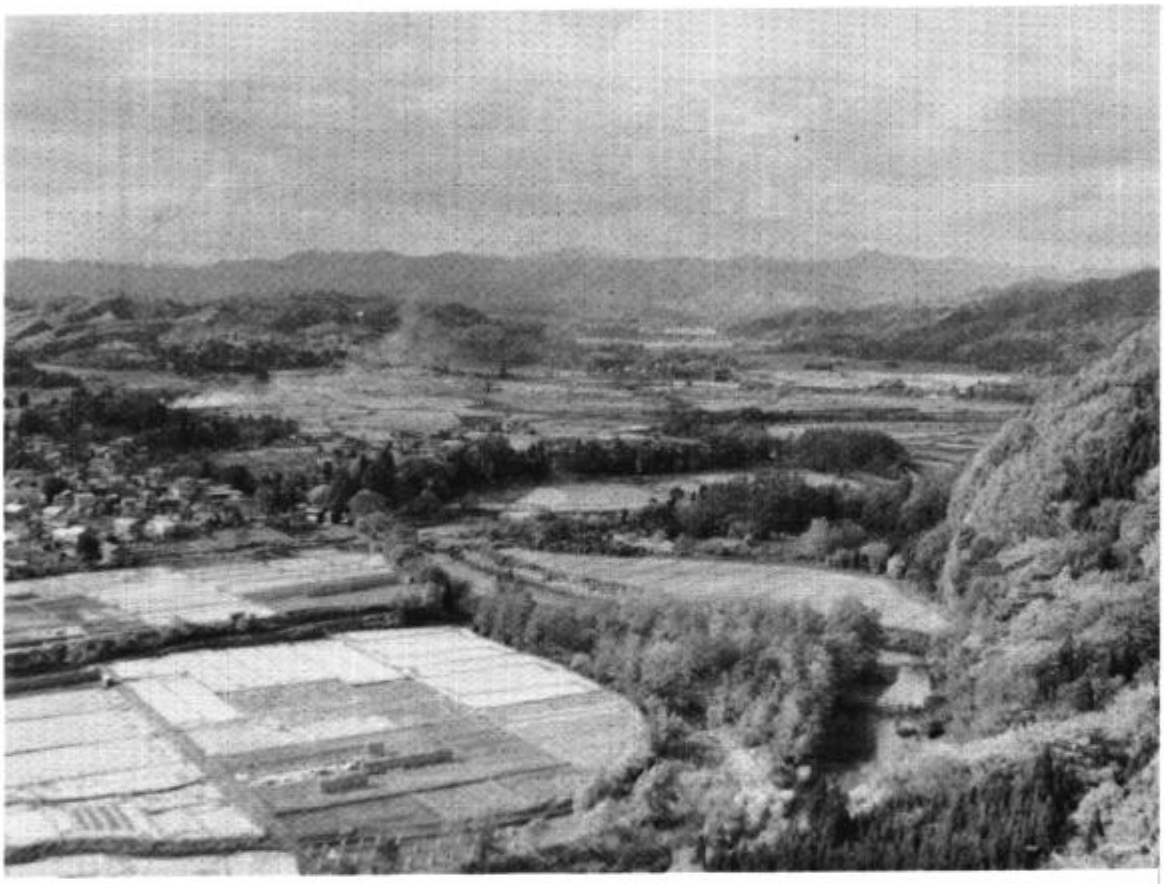
奥山潤「縄文晩期の組石棺（『考古学雑誌』昭和40．2）

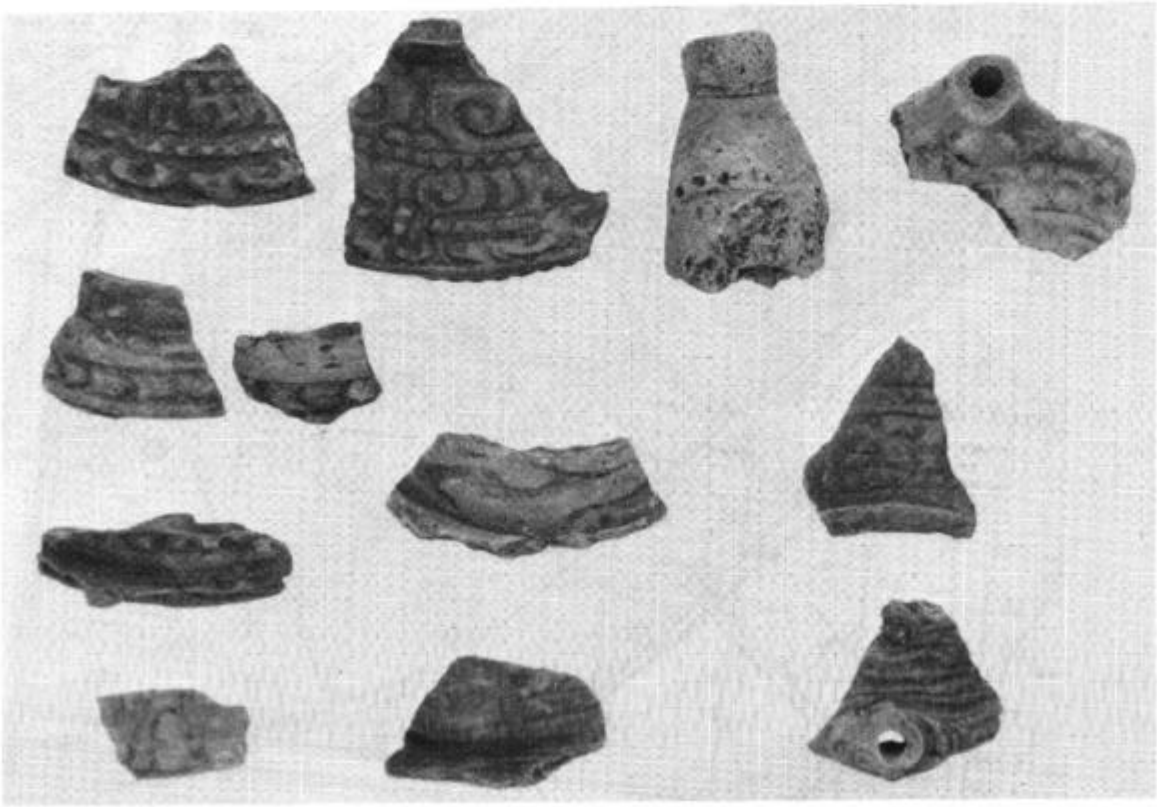
位 置 図

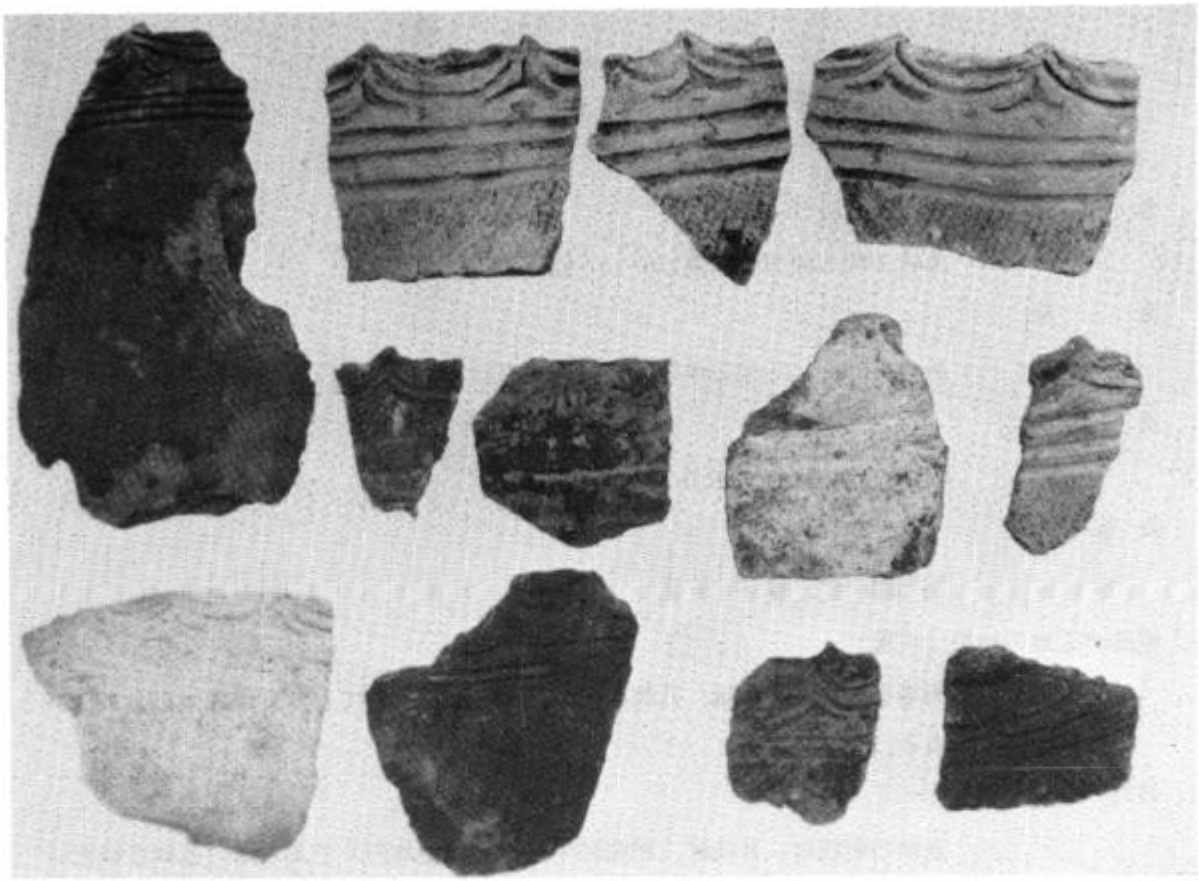
（1/50,000）

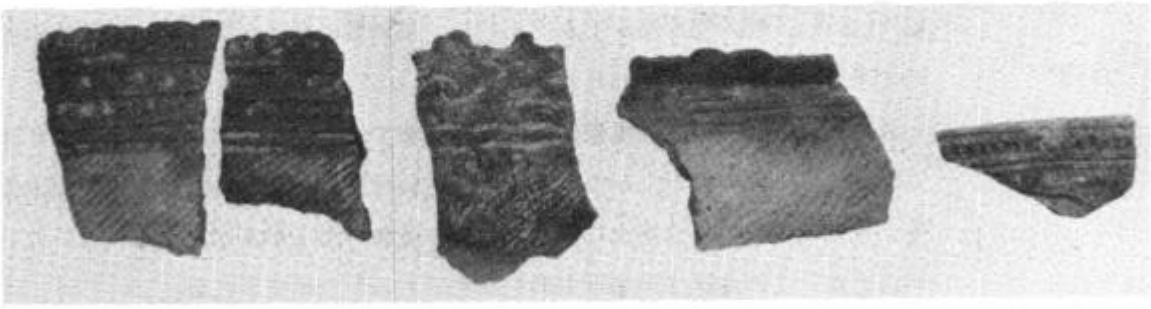
範 囲 図 （1/2,000）

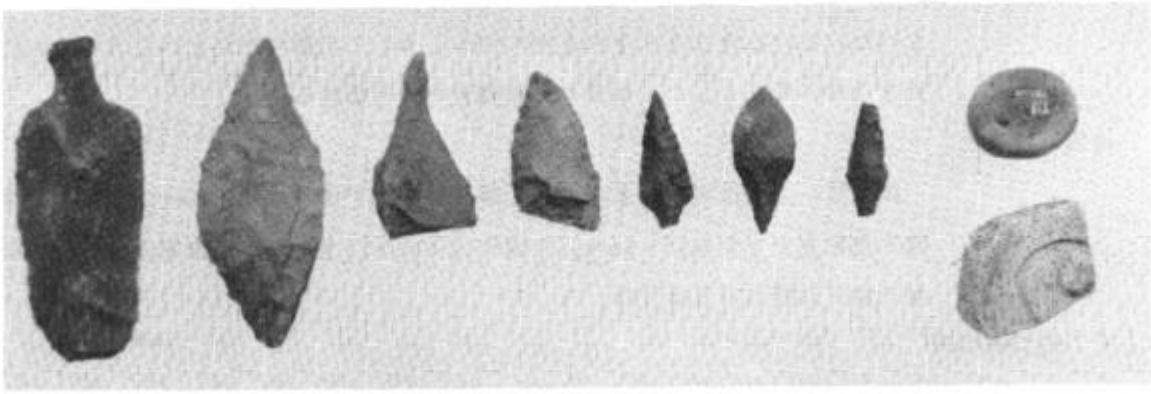












蒲　沼　遺　跡

1．所　在　地

南秋田郡八郎潟町蒲沼150—1　他

2．面　　積

約 7,400㎡（昭和55年度圃場整備地内）

3．調査期間

昭和53年10月16日～21日

4．調　査　者

柴田陽一郎，藤井安正

5．遺跡の立地の特徴（現況）

馬場目川の北約1㎞，八郎潟の東約1㎞に位置しており，現在水田および畑である。

6．範囲・時代・性格

遺跡の範囲は，B地区（昭和55年度圃場整備地内）であろう。遺構は検出されなかった。遺物の包含層はII層とIII層である。II層からは陶器片，木製品が出土した。近世のものと思われる。III層からは土師器片（2点），須恵器の甕の破片（2点），杯の完形品が1点出土した。須恵器の杯はヘラ切り，無調整のもので平安時代のものと思われる。

A地区（昭和54年度圃場整備地内）の南側では北側に比べ第II層がかなり厚く堆積している。また，かなり多く検出された流木と思われる自然遺物が土器等とほぼ同一レベルで出土している。また遺物の出土がまばらであった。以上のことからこの地区は馬場目川の氾濫源であったと推定される。

B地区では土師器片2点出土したのみであるが，地元の人の話では，現在牛舎のたっているところとその北側の畑から多くの土器が出たとのことでその付近を遺跡の範囲とした。後日の分布調査がのぞまれる。

7．地層（深さ）

第I層から第III層まである。第I層は耕作土で深さは15～20㎝，第II層は晴青灰色粘質土で北側10～30㎝，南側80～100㎝以上ある。第III層は暗緑灰色砂層で深さは相当あるようだ。

8．その他特記事項

A地区内に貞和5年（1350）銘の板碑が存在する。

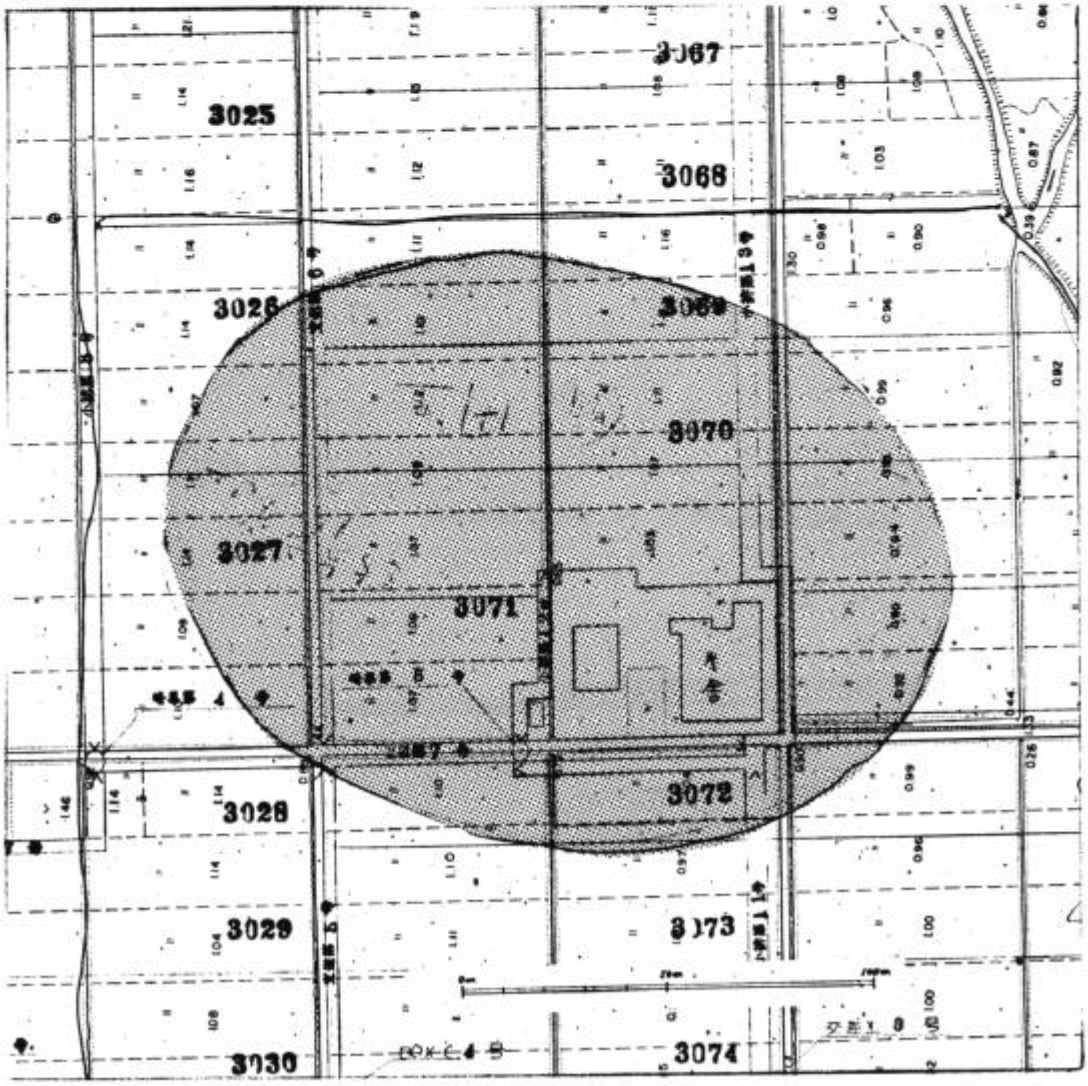
9．参考文献・事項

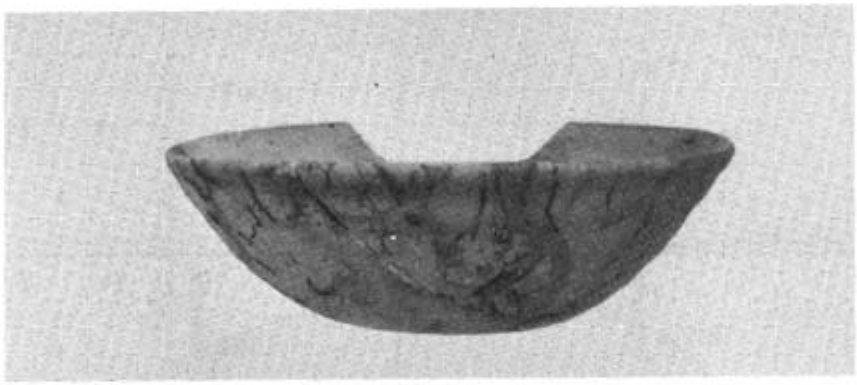
八郎潟町史

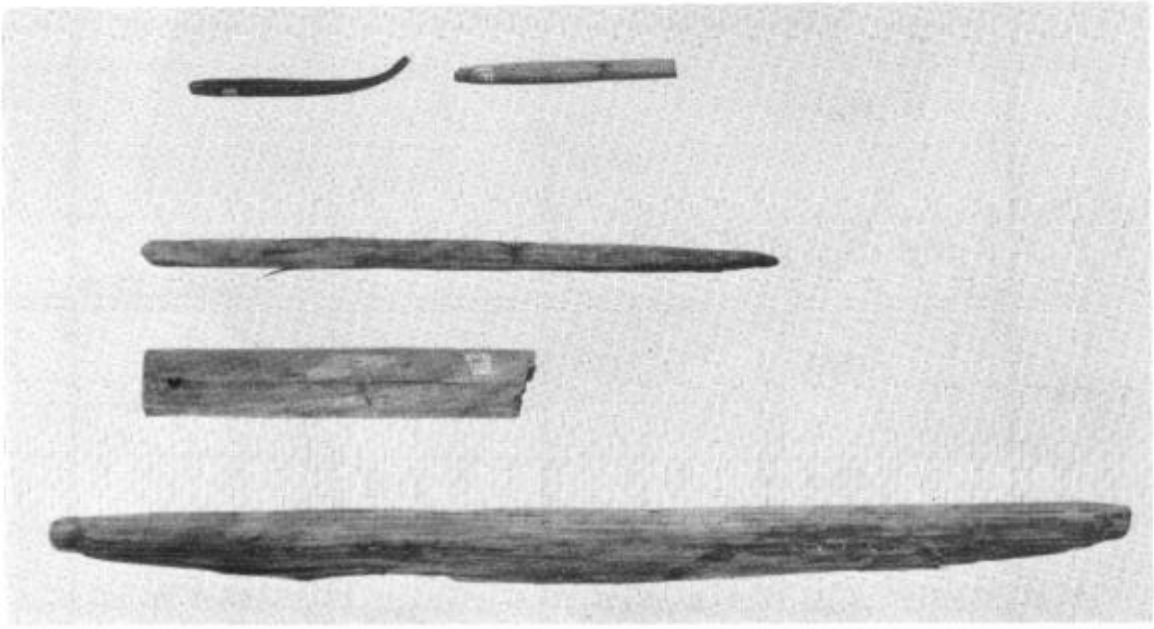
位 置 図

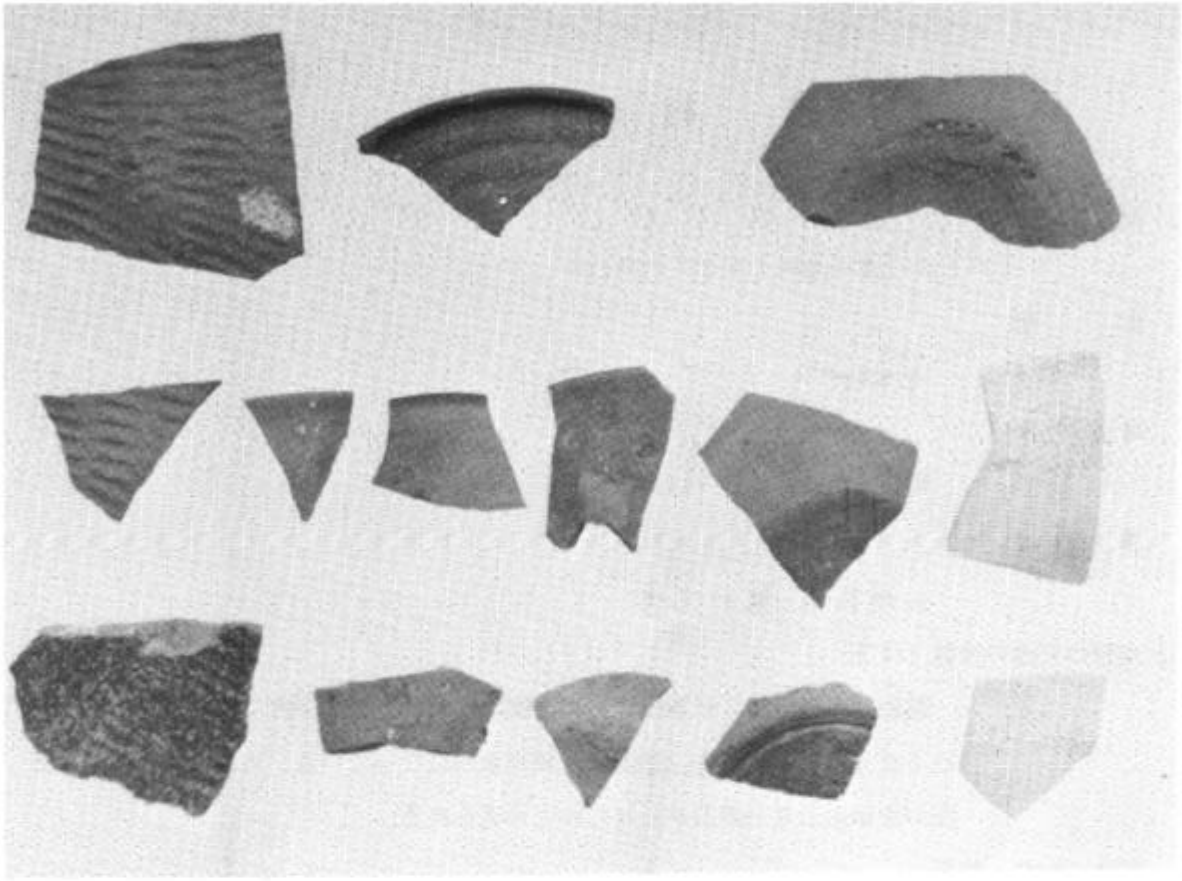
（1/25,000）

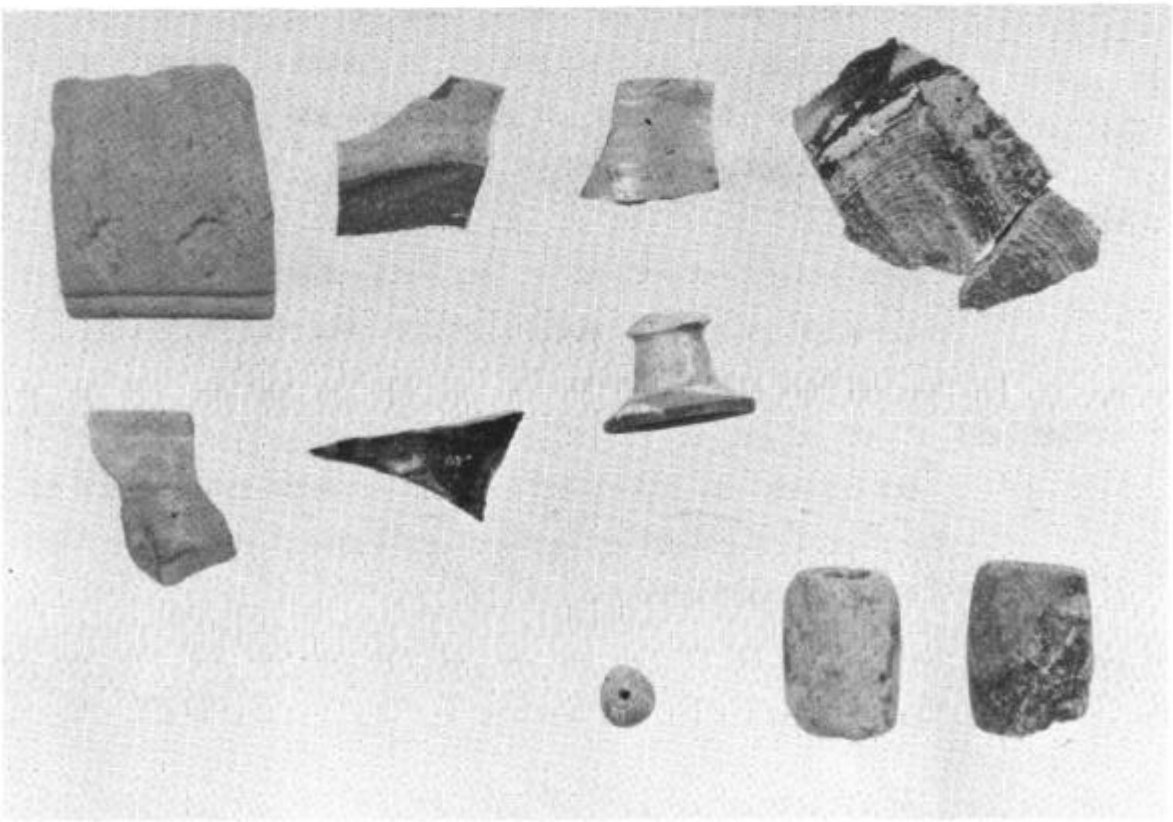
範 囲 図 （1/2,000）











内　村　遺　跡

1．所　在　地

仙北郡千畑村千屋字下内村114

2．面　　積

5,600㎡

3．調査期間

昭和53年10月9日～14日

4．調　査　者

永瀬福男，栗沢光男

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は真昼山地（奥羽山脈）の西側にひらける仙北平野に位置する。遺跡の近くを丸子川が流れる。遺跡は，現在水田になっている。水田になる前は，周囲の沖積面より一段高かったものと考えられる。

6．範囲・時代・性格

遺構は確認できなかったが，遺物の分布する範囲は 5,600㎡ほどである。出土した遺物は，縄文時代中期の土器片，土師器（杯，甕）片，須恵器（甕）片，古銭（天元通宝，至元通宝など）であった。出土遺物から，縄文時代中期末葉，平安時代，中世と三時期にわたって使用された複合遺跡と考えられる。遺跡の性格としては集落跡が考えられる。

7．地層（深さ）

約15～20cmほどの耕作土を剥ぐと，礫と黒色土との混合層に至る。遺物はこの混合層上面で出土するが，地点によっては30～40cmで混合層に至る場合もある。この場合，遺物の出土が多い。

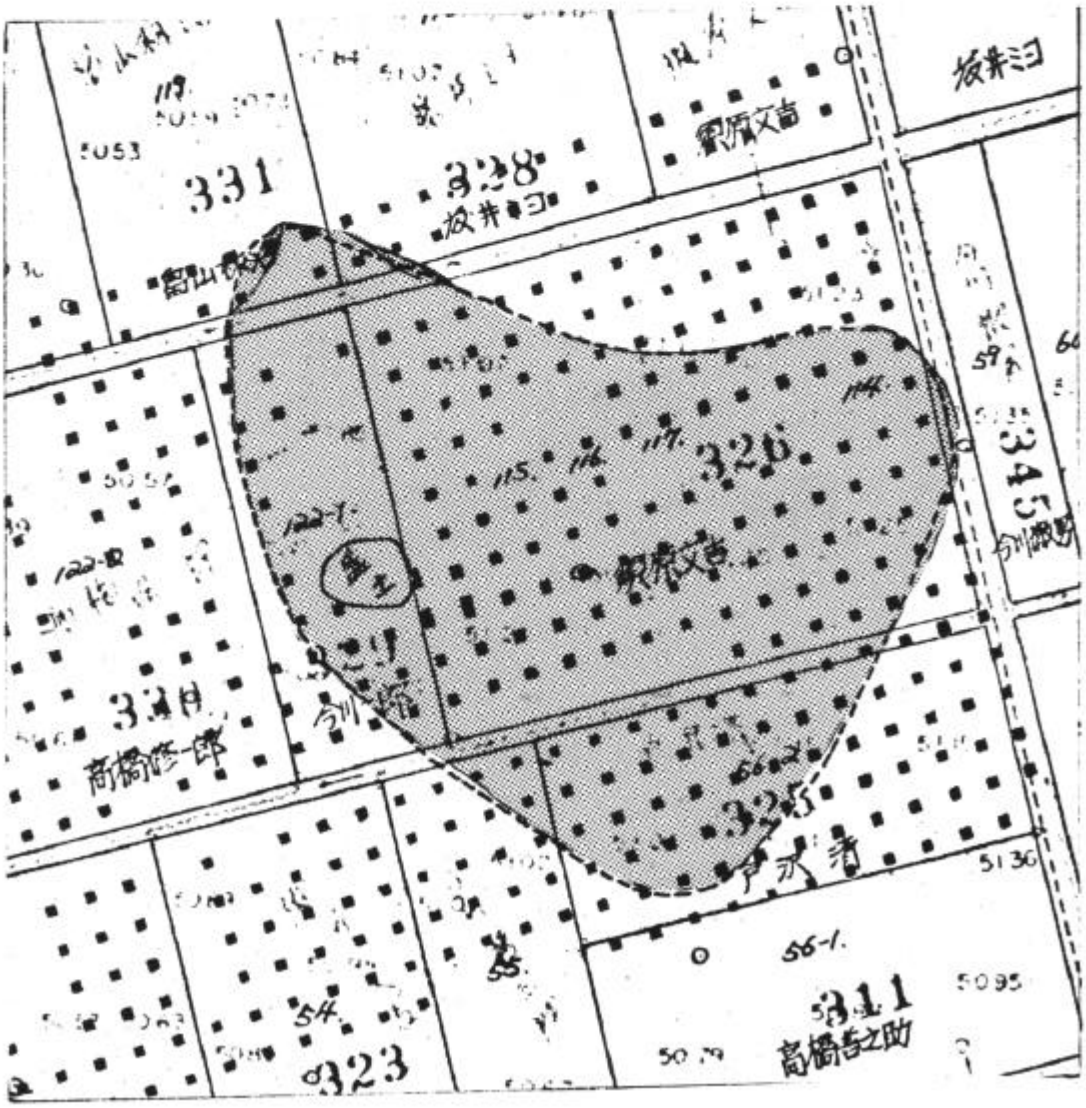
8．その他特記事項

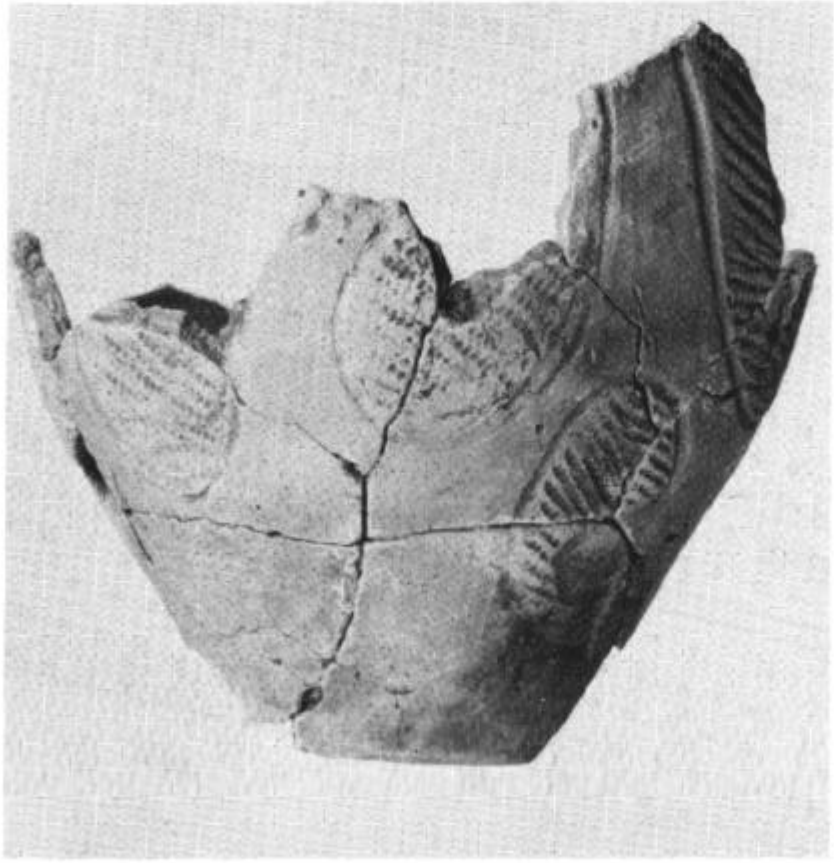
礫まじり黒色土は，大正～昭和にかけて行われた耕地整理の際の整地層であるかもしれない。一段高いところを除去し水田を造成したので，遺跡の大部分が破壊されている可能性がある。

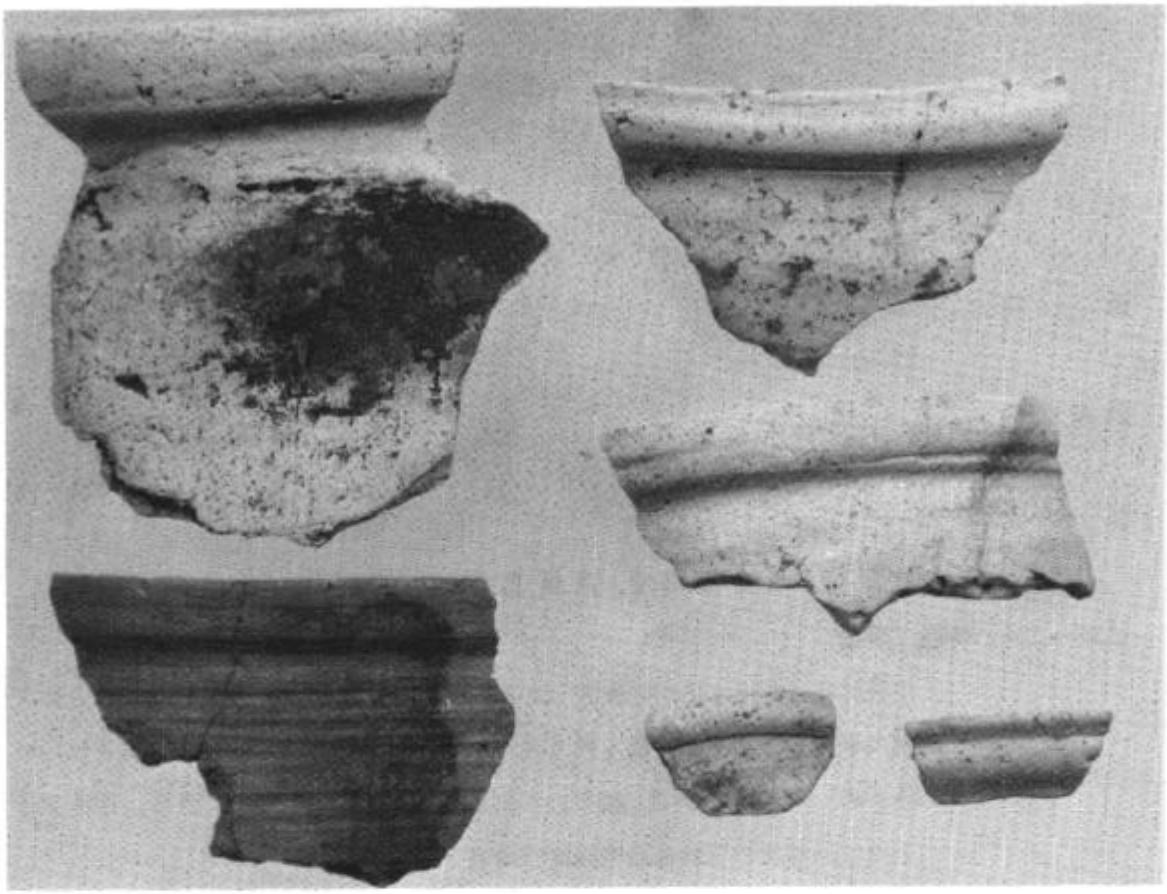
位 置 図

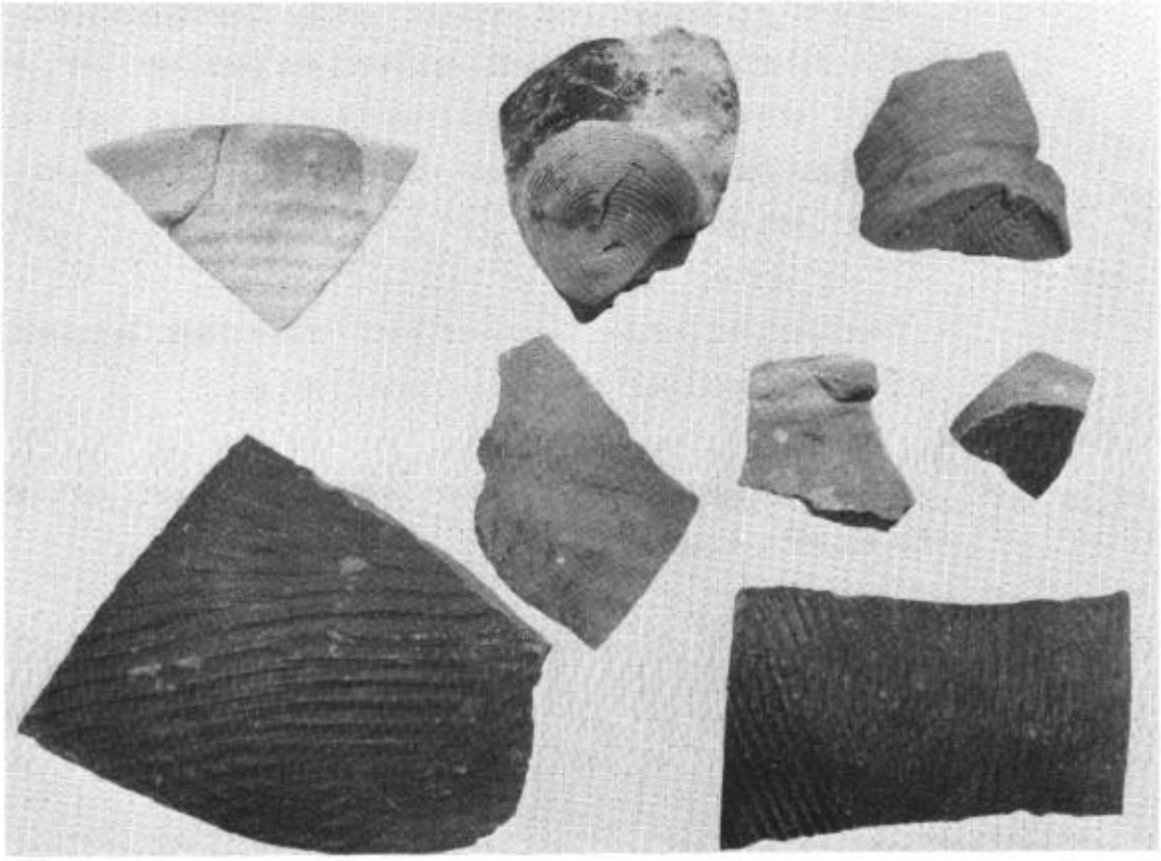
（1/25,000）

範 囲 図 （1/1,000）









鵜　沼　城　跡

1．所　在　地

雄勝郡雄勝町桑ケ崎字平城

2．面　　積

22,000㎡

3．調査期間

昭和53年10月2日～21日

4．調　査　者

畠山憲司，橋本高史，高橋忠彦，佐々木孝明

5．遺跡の立地の特徴（現況）

平城部落の西側水田中に東西 120m×南北 100mの硬い地盤の低平な台地が周囲の水田より2～3m高く残っている。遺跡はこの台地の周囲に幅7～10mの堀をめぐらしたもので，現在の水田にその跡を見ることができる。遺跡東後山中には，館跡と思われる空堀跡が残存する。

6．範囲・時代・性格

東西 170m×南北 160m，一辺 100m前後の五角形，遺跡の範囲は22,000㎡である。出土遺物はいわゆる中世陶器の他青磁等も多く室町時代中～後半と考えられる。遺跡中央部から5間×5間以上の掘立柱建物跡，全城から径30～40cmの円形柱掘方が検出されており，4基の井戸跡もある。中世末期のいわゆる平城ないし館跡であろう。

7．地層（深さ）

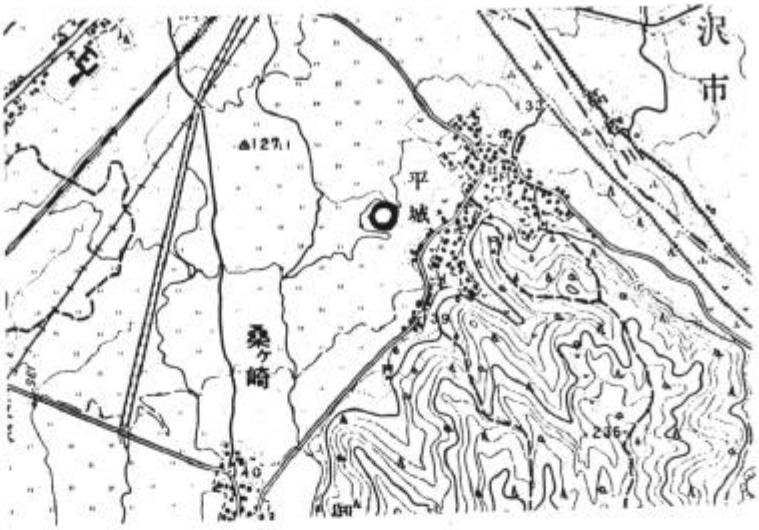
中央台地部では，耕作土（15～20cm）の下がすぐ地山土で遺構，遺物検出面となる。堀跡等の周辺部では60～100cmで地山土に達する。

8．その他特記事項

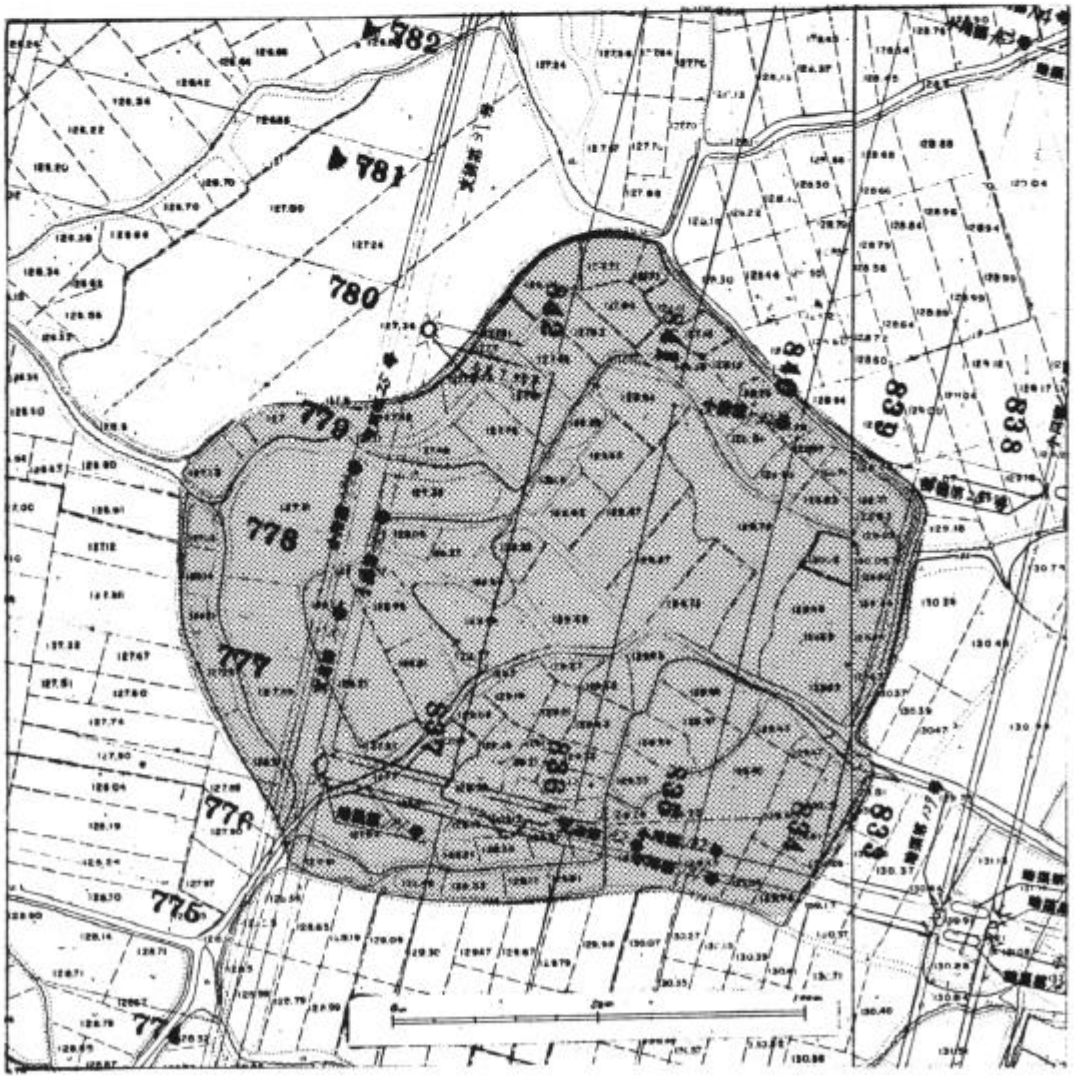
背後にいわゆる山城をひかえた本格的な中世末期城跡と考えられ，この山城の調査も進めてみる必要がある。

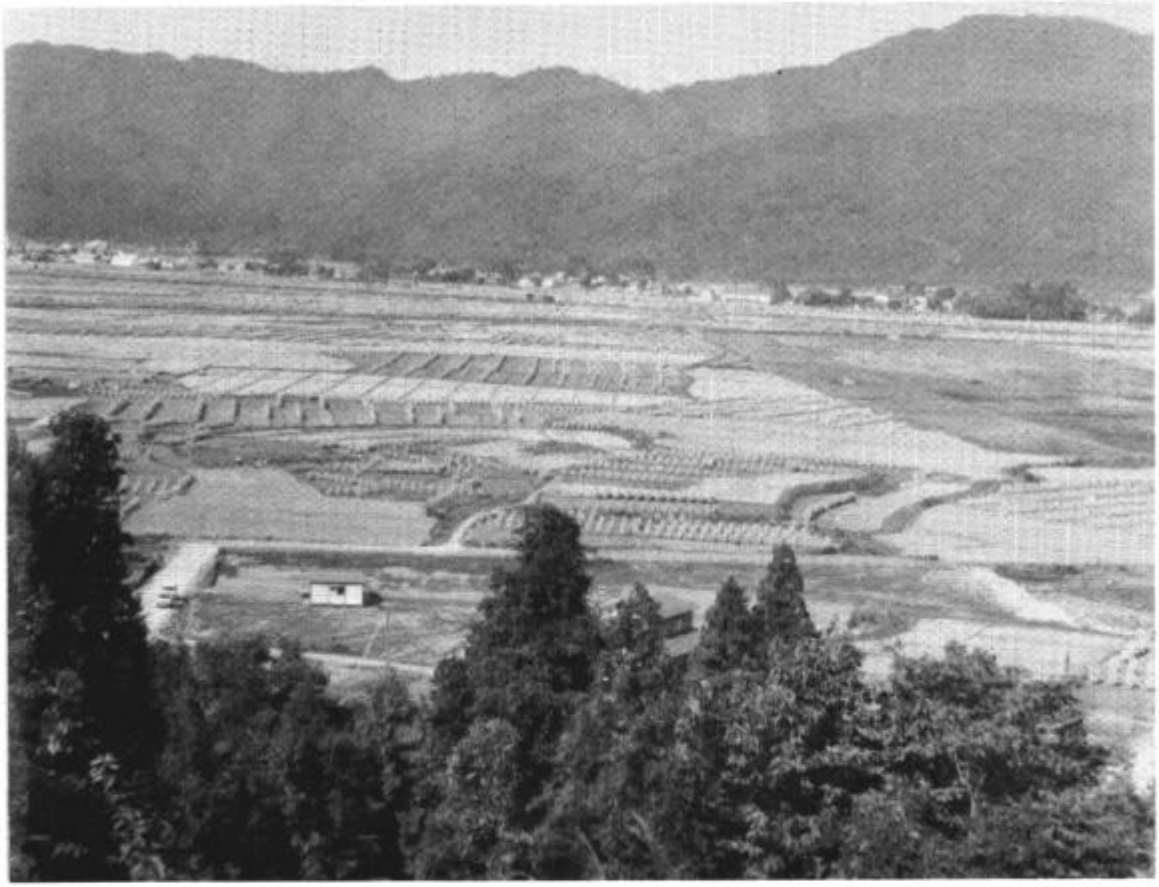
位 置 図

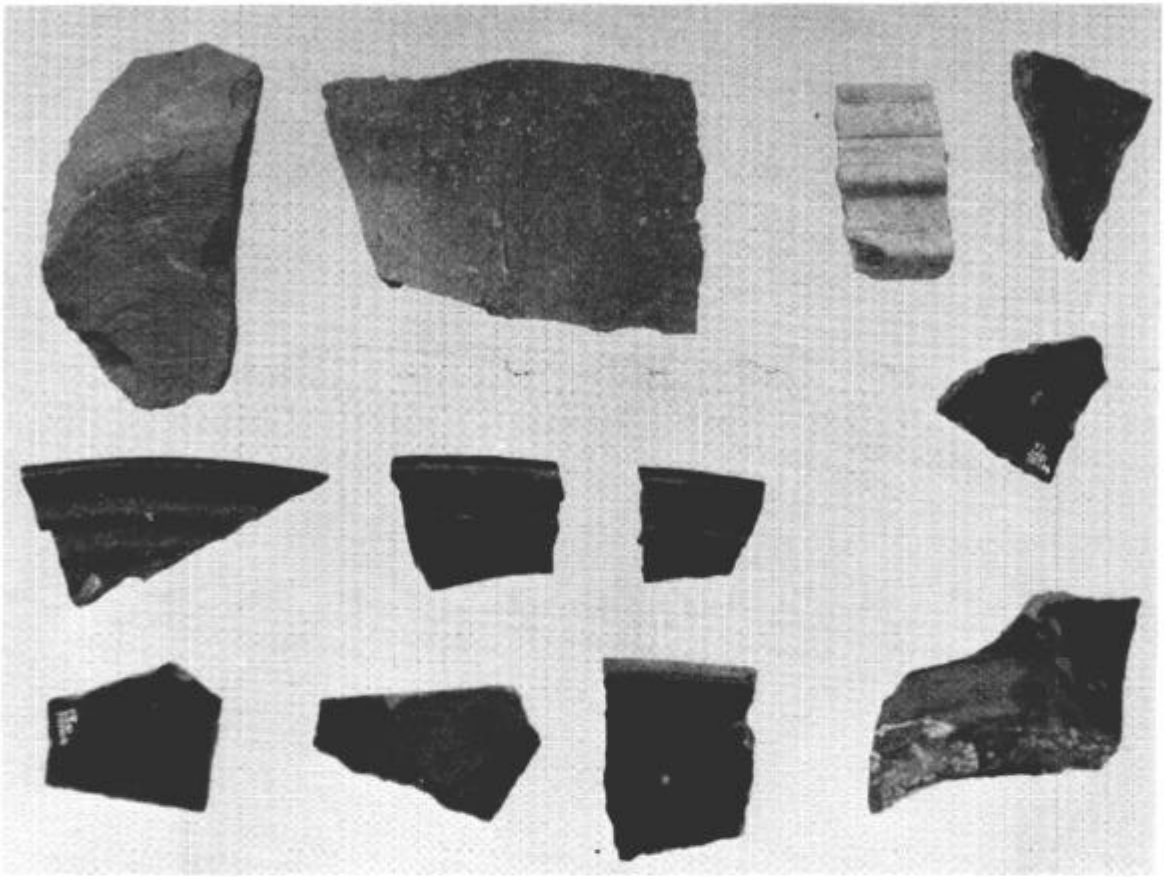
（1/25,000）

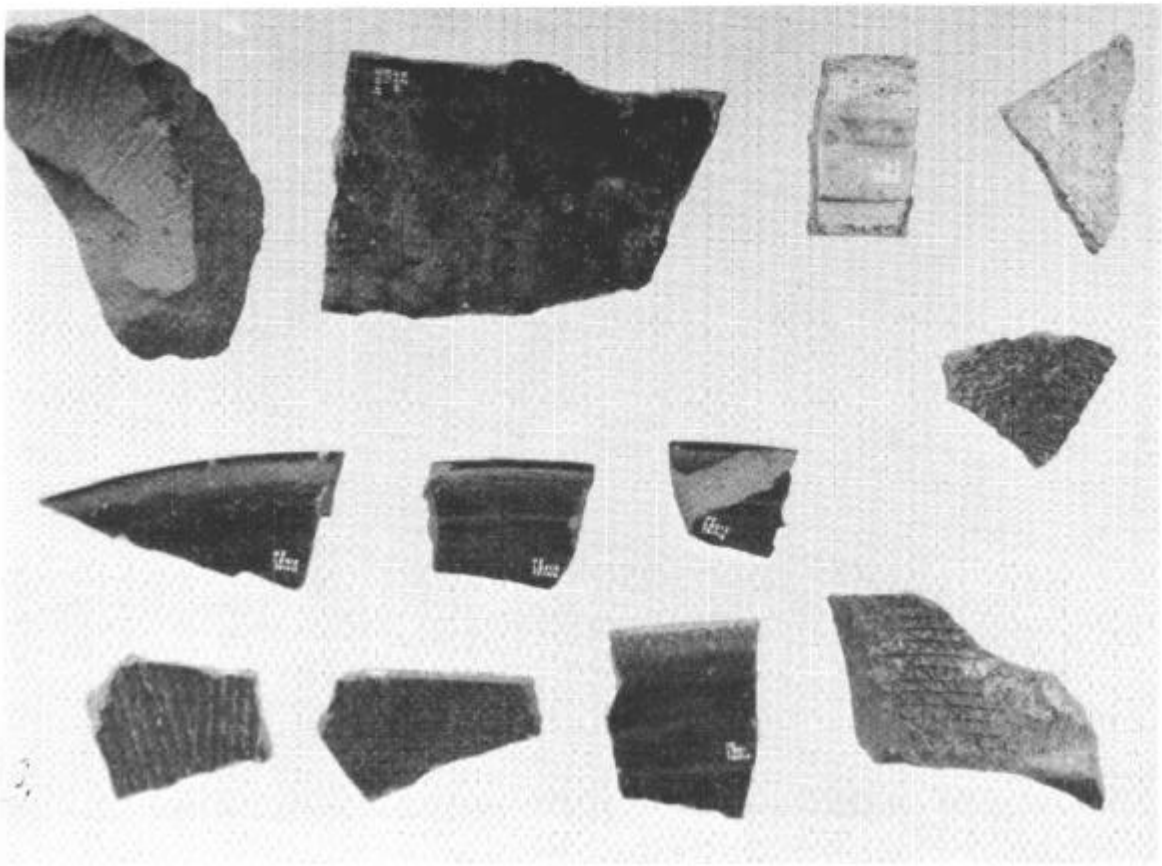


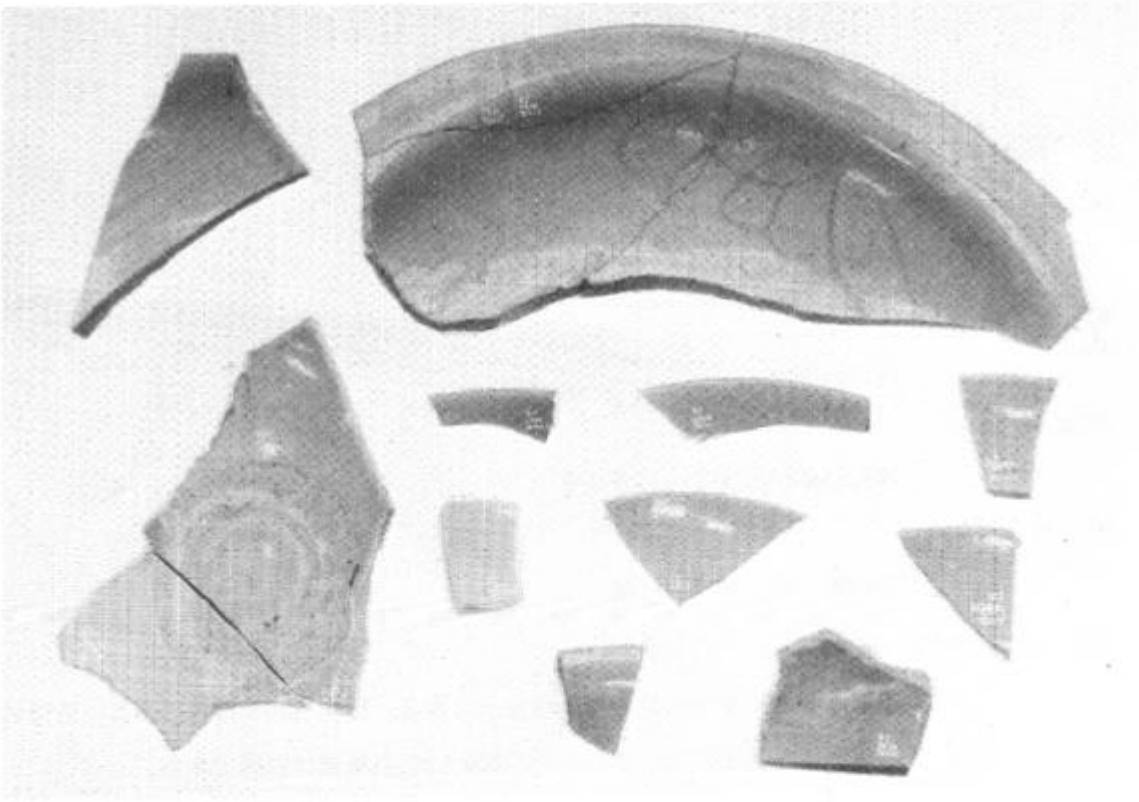
範 囲 図 （1/2,000）

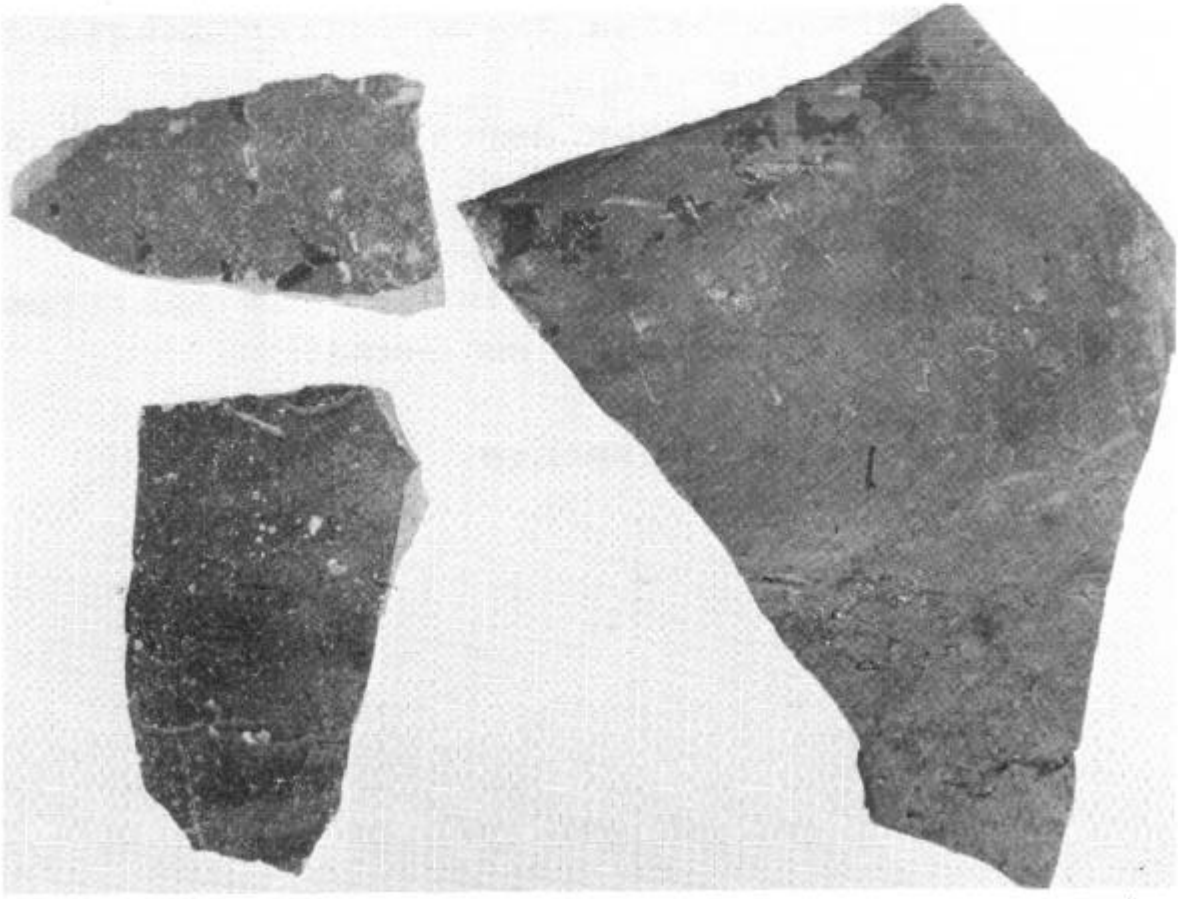












宝　竜　台　遺　跡

1．所　在　地

雄勝郡稲川町大谷９　他

2．面　　積

約14,400㎡

3．調査期間

昭和53年10月30日～11月２日

4．調　査　者

柴田陽一郎，栗沢光男

5．遺跡の立地の特徴（現況）

遺跡は皆瀬川中流右岸の河岸段丘上にあり，標高 195m前後である。台地の下の東側は，現在田で，さらにその200～300m東側は山林である。

6．範囲・時代・性格

遺跡の範囲は台地全体である。縄文時代中期（大木８，９式期）の遺跡で，台地上の南東端では集石遺構（径20～30cm）が検出された。この付近を中心にかなり拡がりを持つと思われる。

なお，近年台地の東側斜面に道路ができたが，その切り崩された地点から多量の土器が表採されたようだ。

7．地層（深さ）

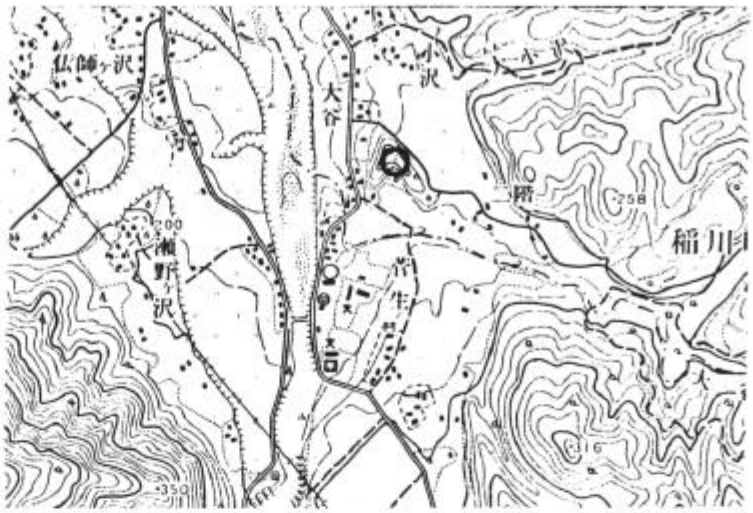
地層は地山までII～III層あり，深さは約40～60cmでII層（黒褐色土）が遺物包含層である。II層までの深さは約25～40cmである。

8．参考文献

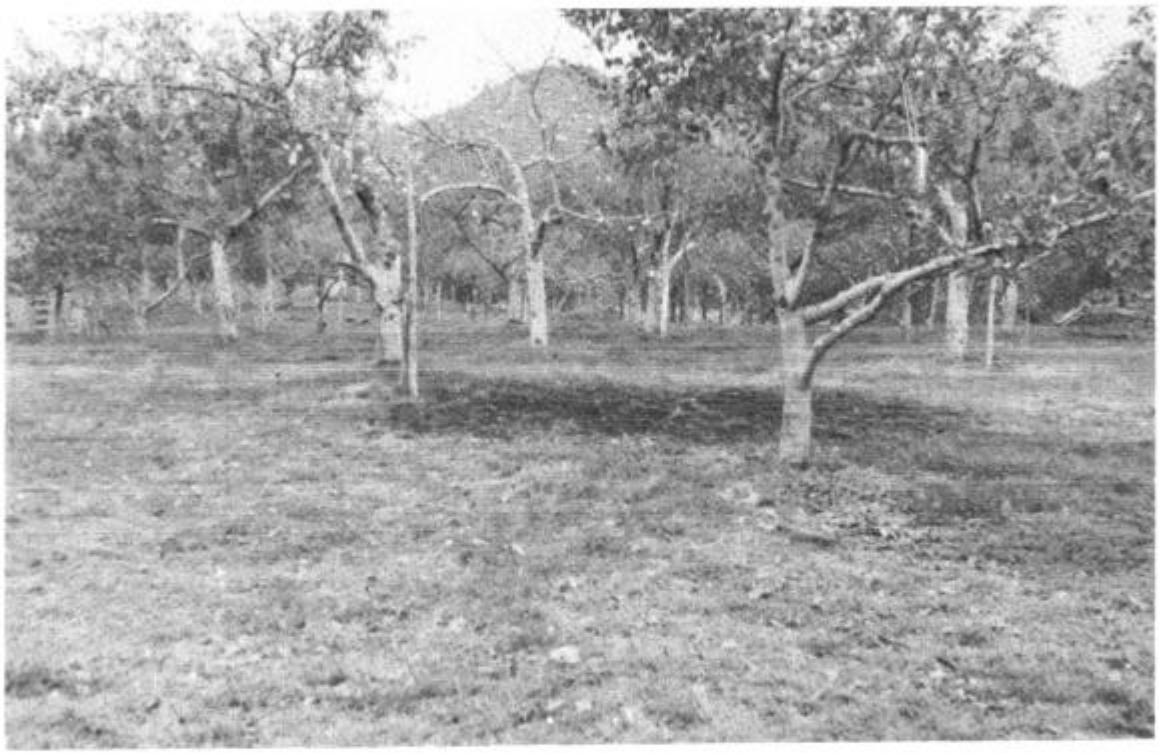
武藤鉄城「宝竜台遺跡発掘調査報告書」

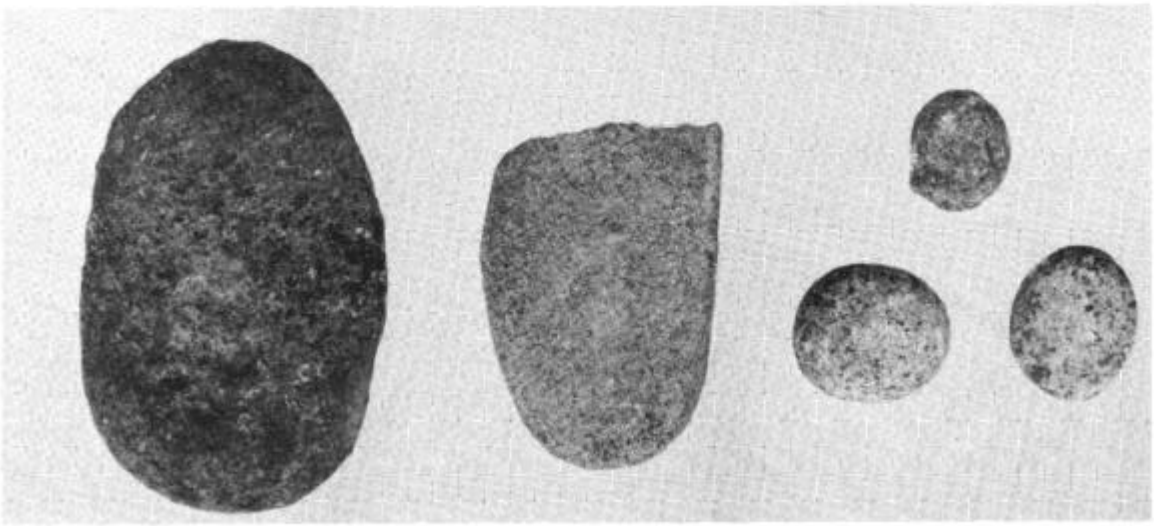
位 置 図

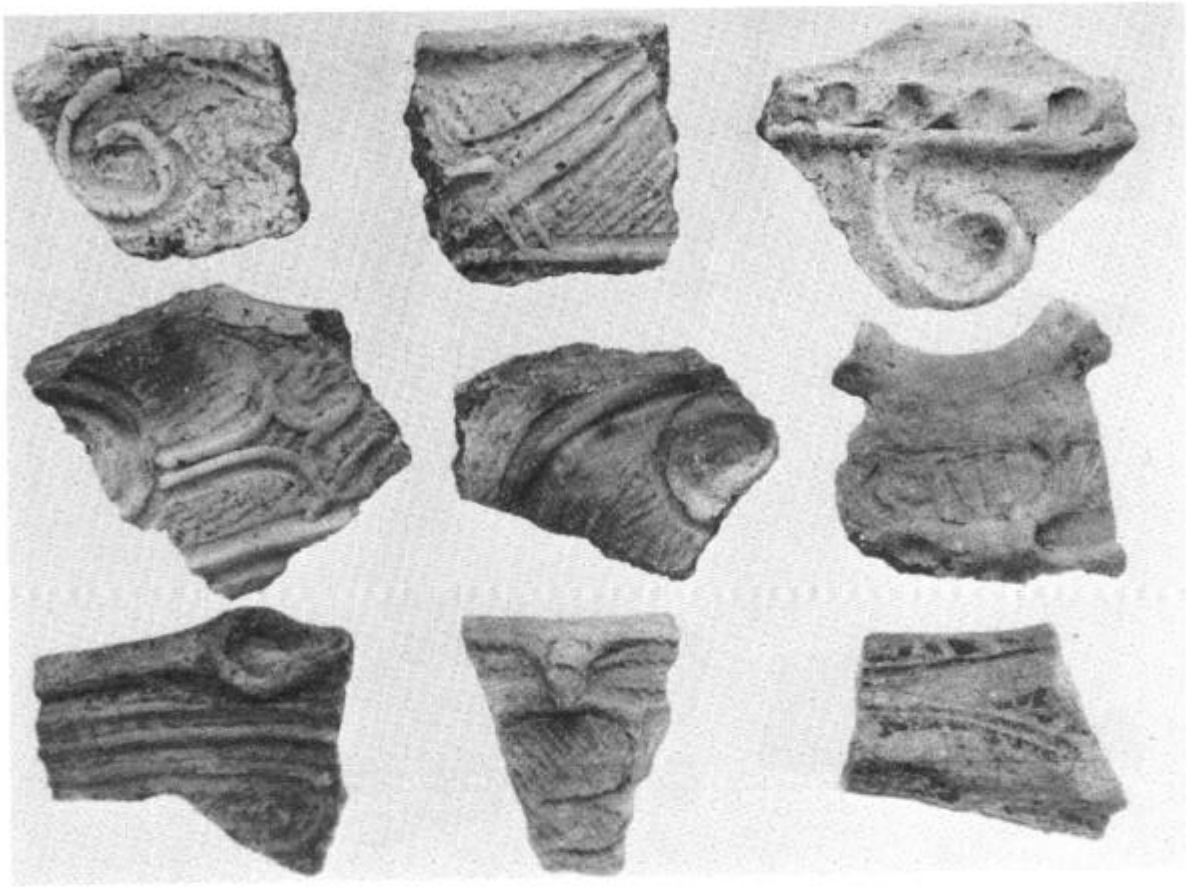
（1/25,000）

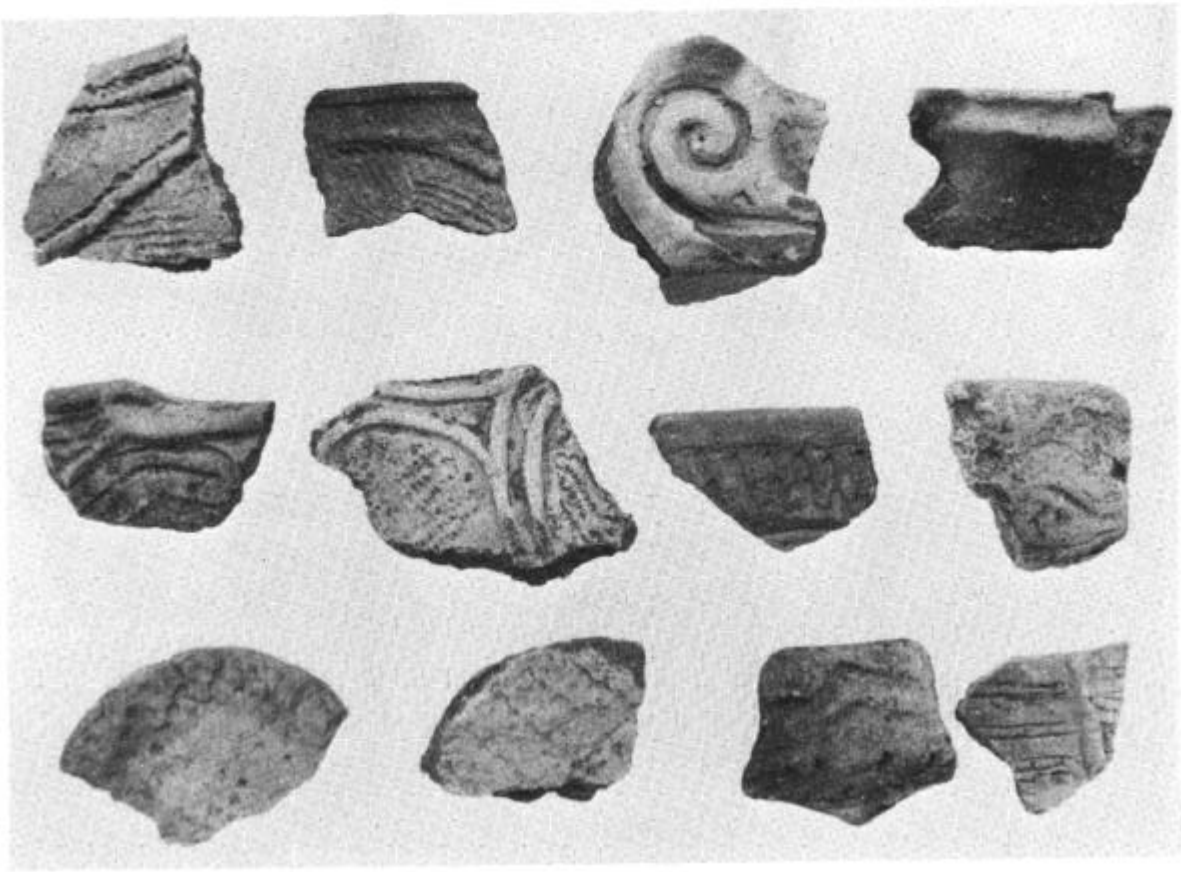


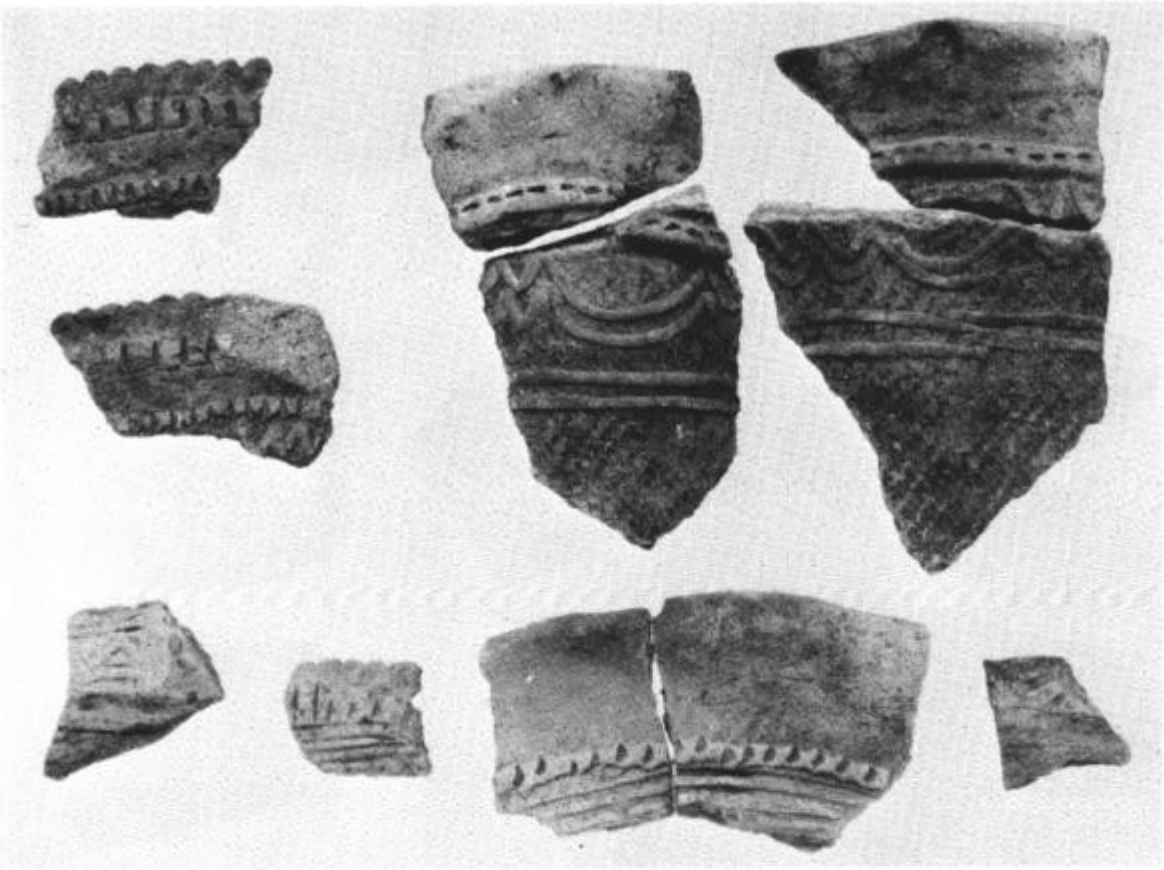
範 囲 図 （1/2,000）

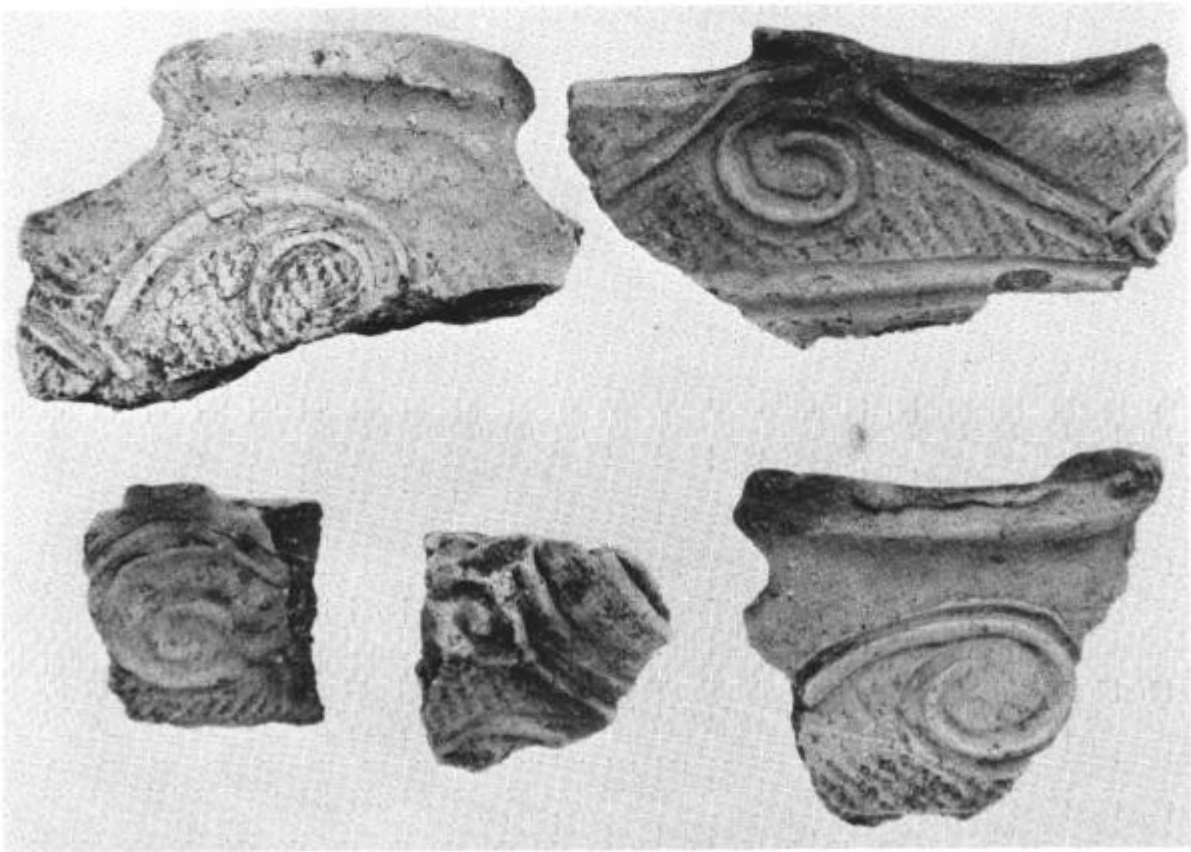












大　谷　I　遺　跡

1．所　在　地

雄勝郡稲川町字二階270 他

2．面　　積

約 8,600㎡

3．調査期間

昭和53年10月16日～21日

4．調　査　者

岩見誠夫，橋本高史

5．遺跡の立地の特徴（現況）

奥羽山脈に源を発する皆瀬川東岸に形成された河岸段丘の舌状地形部に立地し，現況は水田と畑地である。

6．範囲・時代・性格

遺跡は舌状地形部の尖端に近い部分が中心と考えられる。縄文中期大木９式～後期の複合遺跡で，範囲確認のための試掘部分からピット，配石と考えられる遺構が検出されている。

7．地層（深さ）

水田，畑地に高差があり，また開田の際に包含層が削られたりして，地層の厚さや地表から地山までの深さが一様でない。

A地区

耕作土(20cm)，盛土(30cm)，黒色土(包含層50cm)，地山

B地区

耕作土(20cm)，褐色土(包含層20cm)，地山

C地区

耕作土(15cm)，褐色土(包含層45cm)，黄褐色土(40cm)，黄砂(地山)

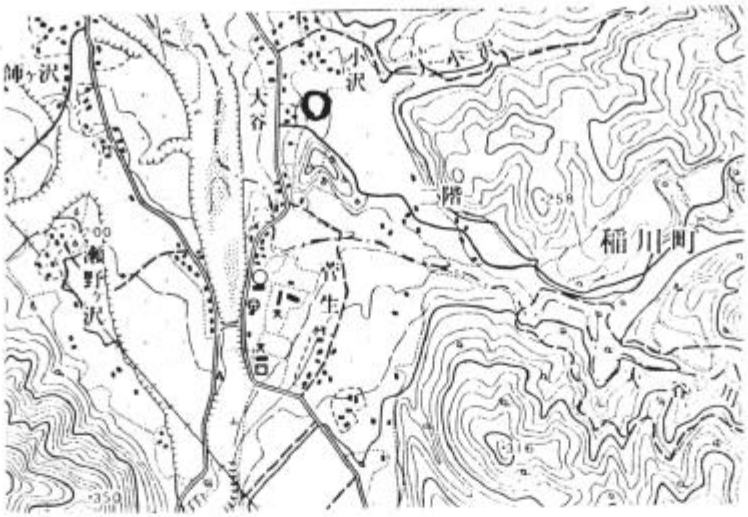
8．その他特記事項

地層に礫や大きな石が多い。

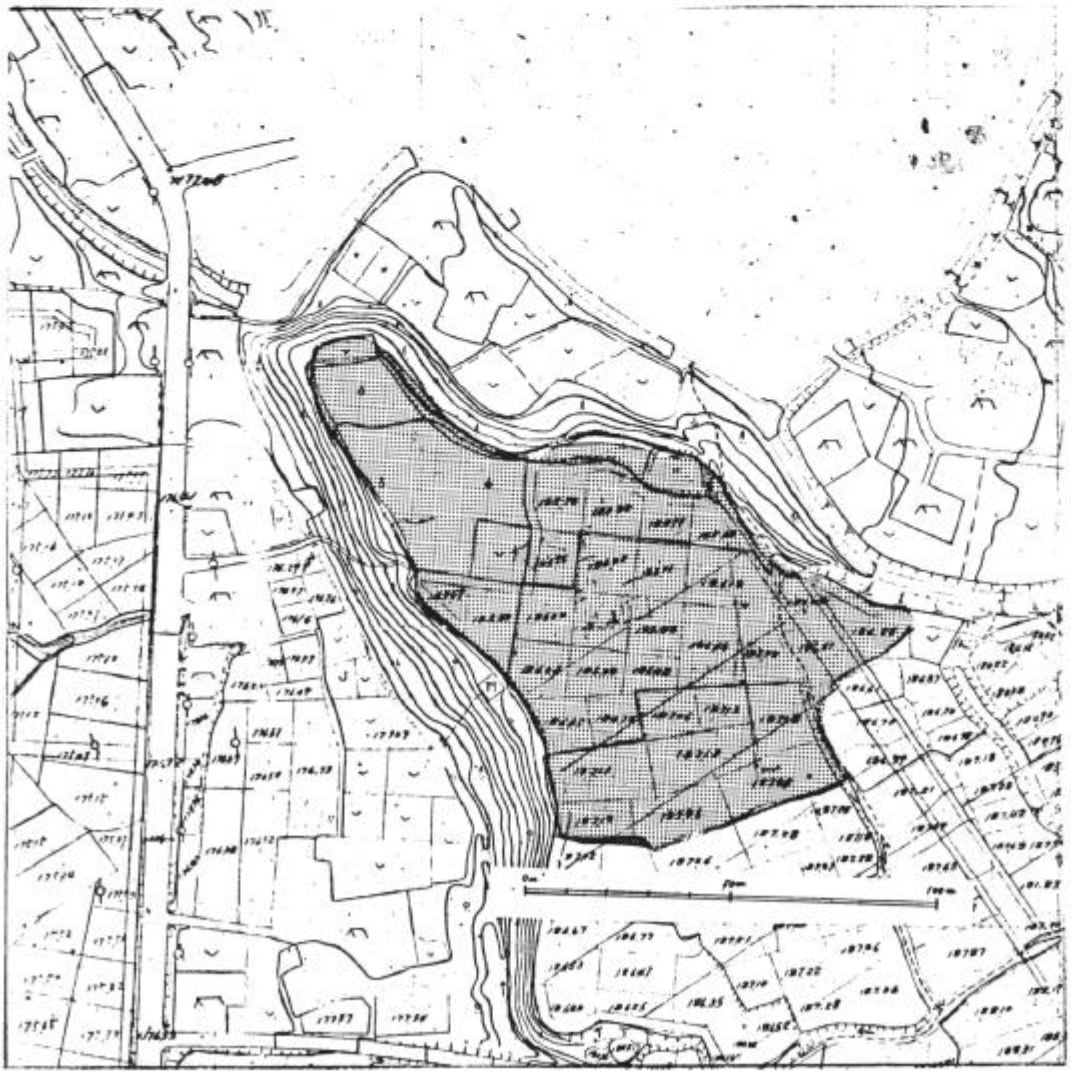
9．参考文献・事項

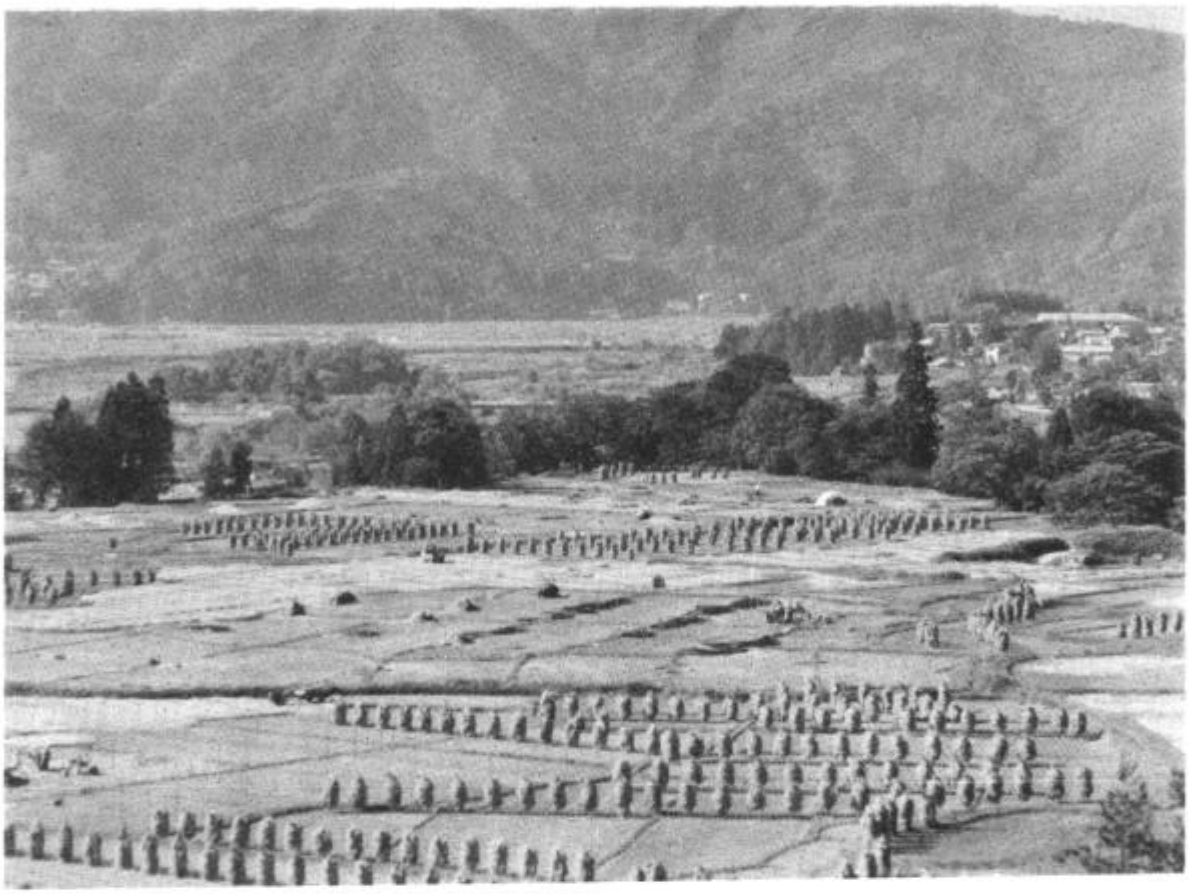
武藤鉄城「宝竜台遺跡発掘調査報告書」

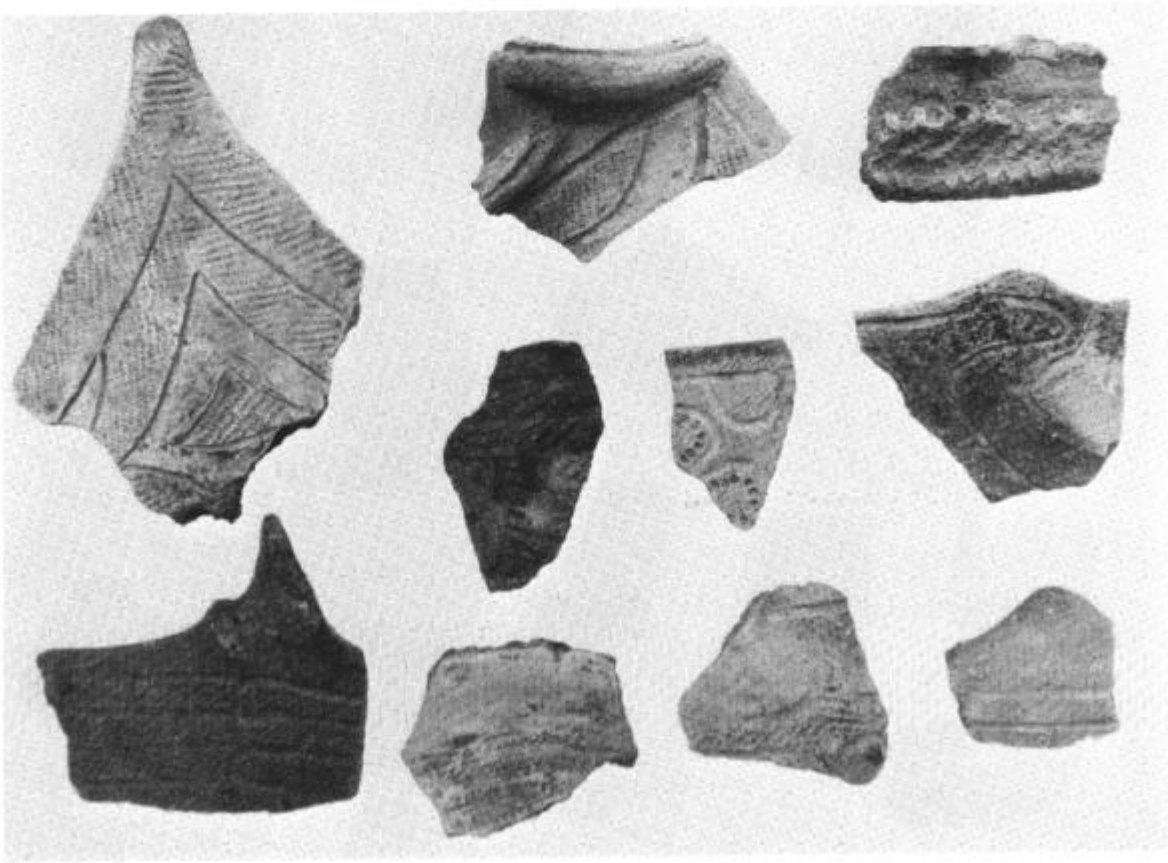
位 置 図
（1/25,000）

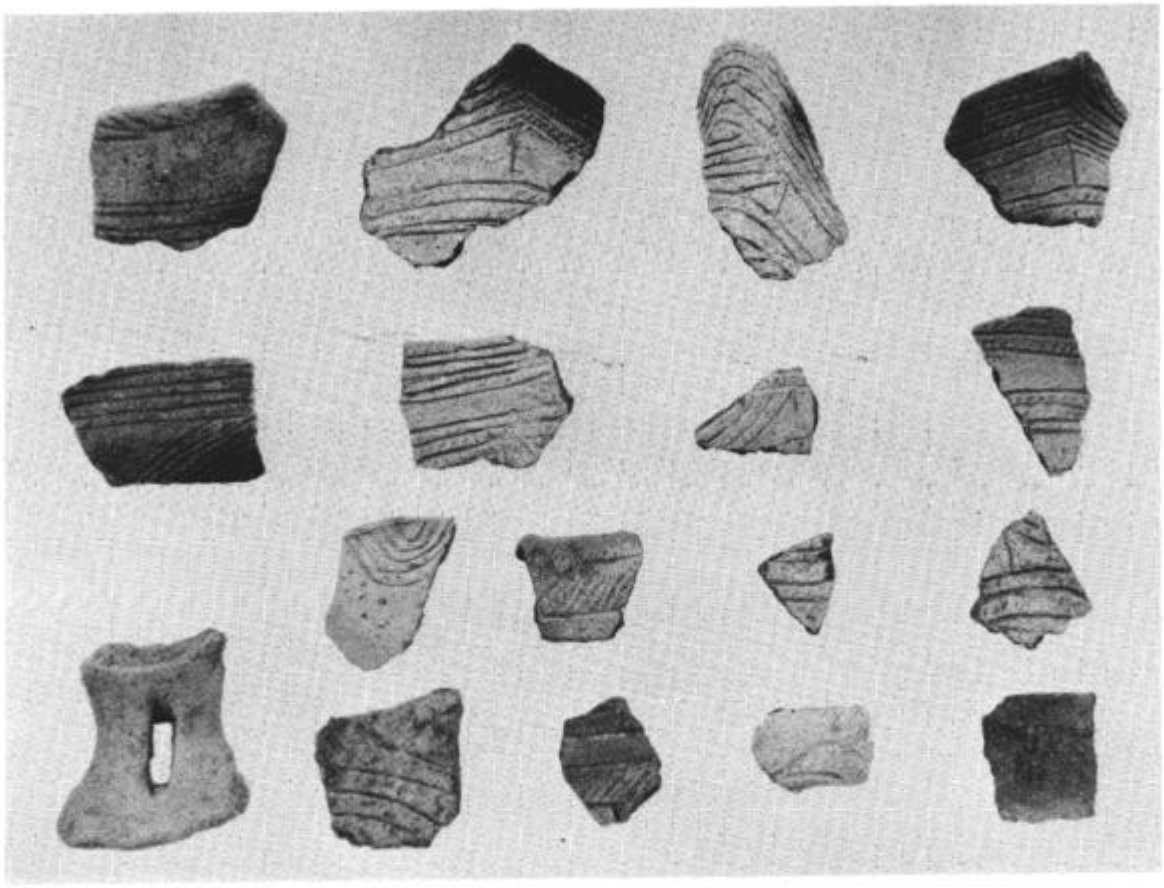


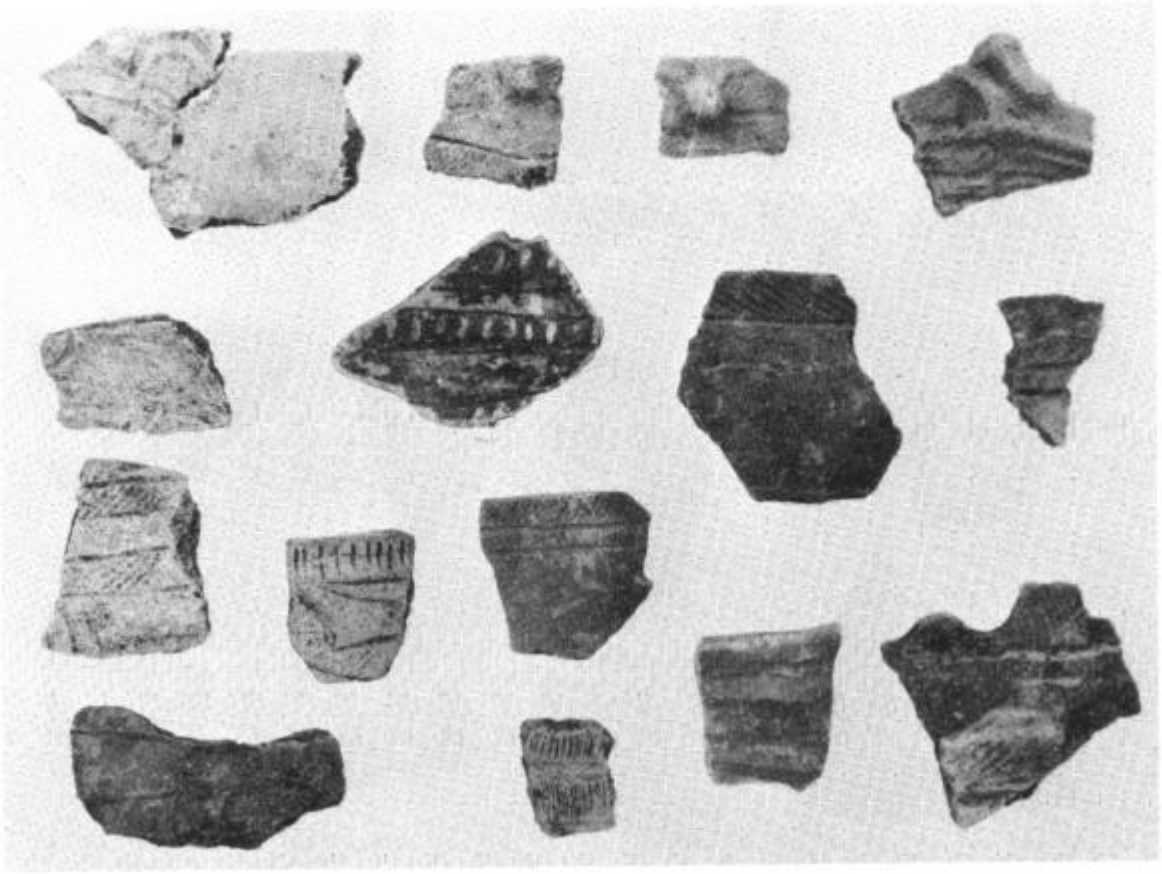
範 囲 図 （1/2,000）

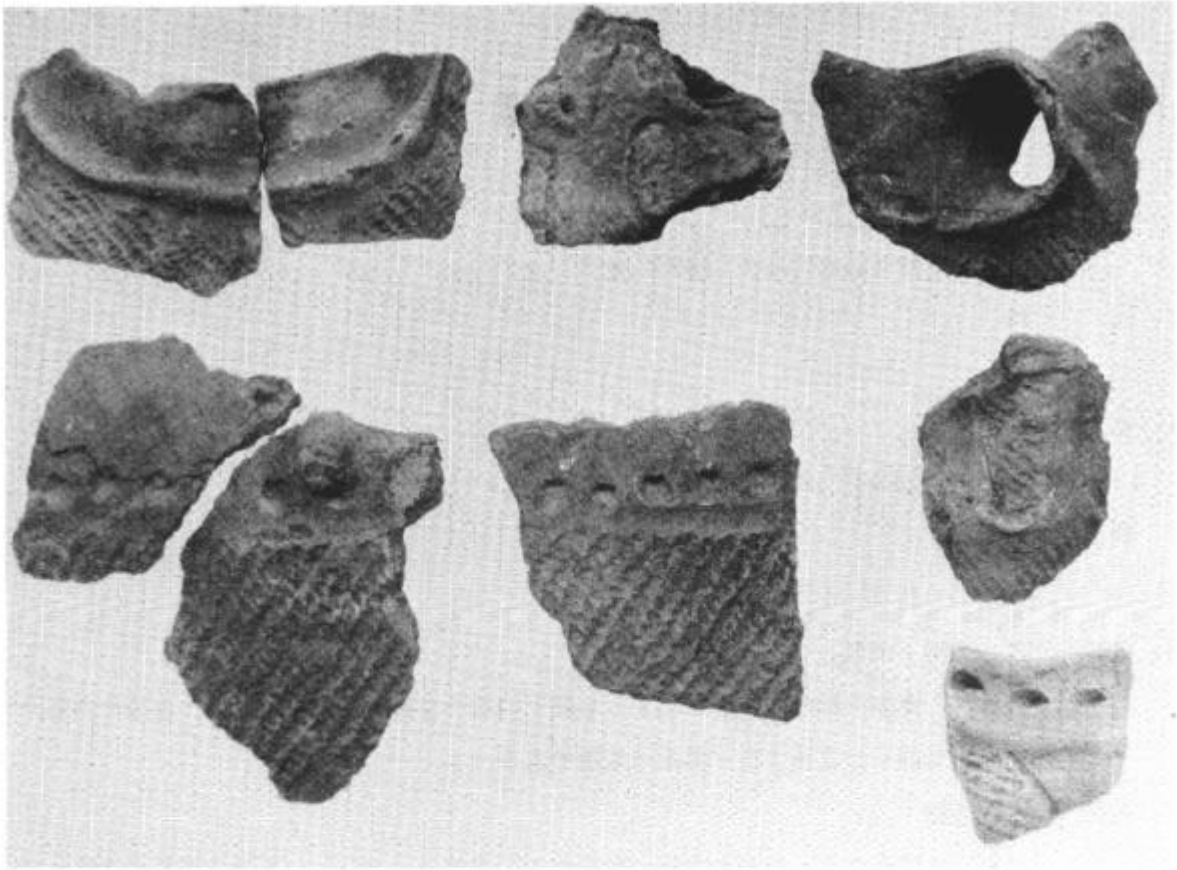


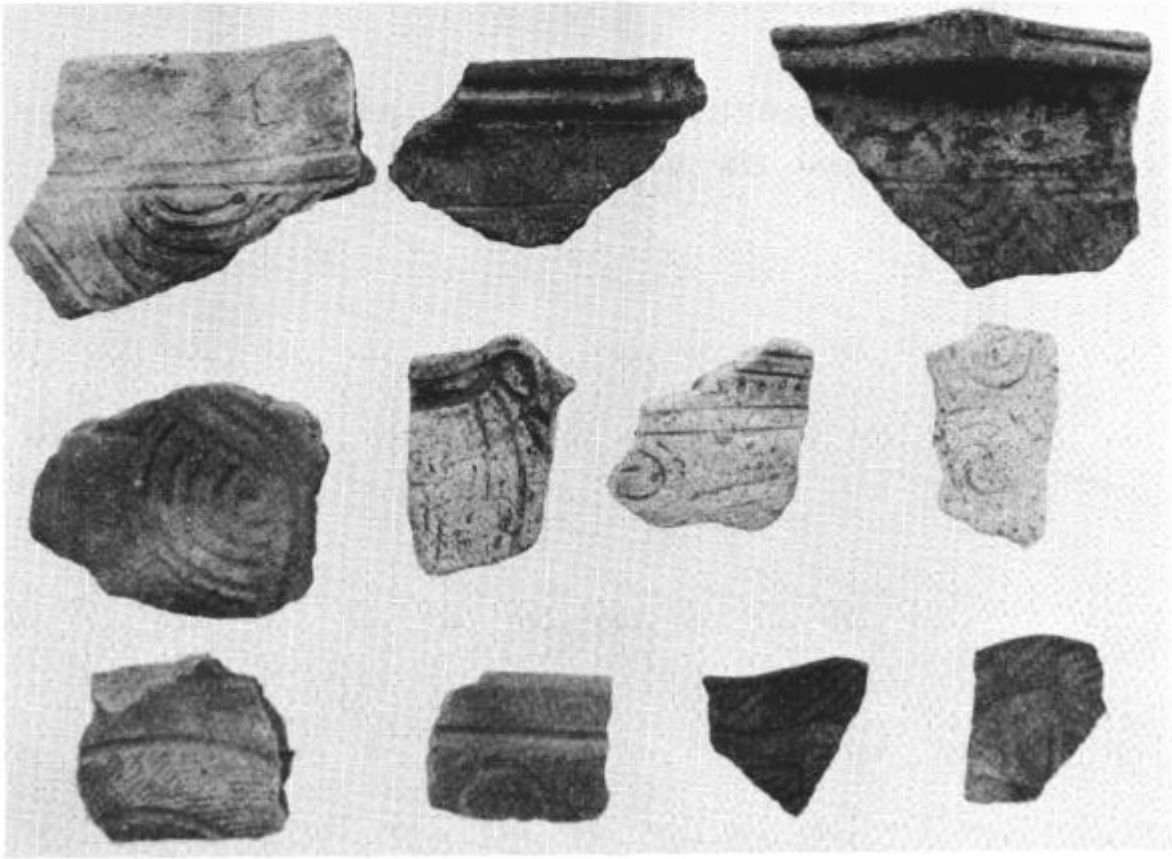












大　谷　II　遺　跡

1．所　在　地

雄勝郡稲川町字二階190 他

2．面　　積

8,500㎡

3．調査期間

昭和53年10月23日～28日

4．調　査　者

永瀬福男，山田貞吉

5．遺跡の立地の特徴（現況）

奥羽山脈の一部を構成する丘陵下の狭小な台地上に位置する。台地の西側を皆瀬川が北流する。現況は水田である。

6．範囲・時代・性格

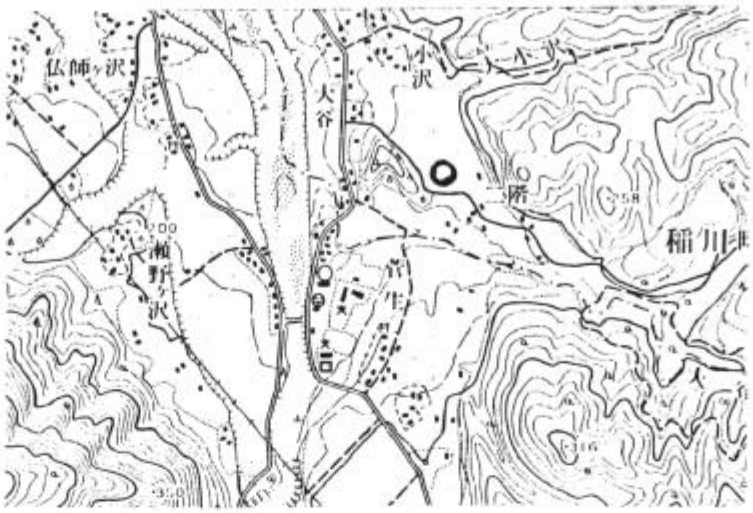
南北に長い台地の南縁に位置する。範囲は約 8,500㎡と考えられ縄文時代晩期（大洞ＢＣ期）の土器，石器が出土した。また，遺構は７ヵ所で検出されたが，性格は不明である。

7．地層（深さ）

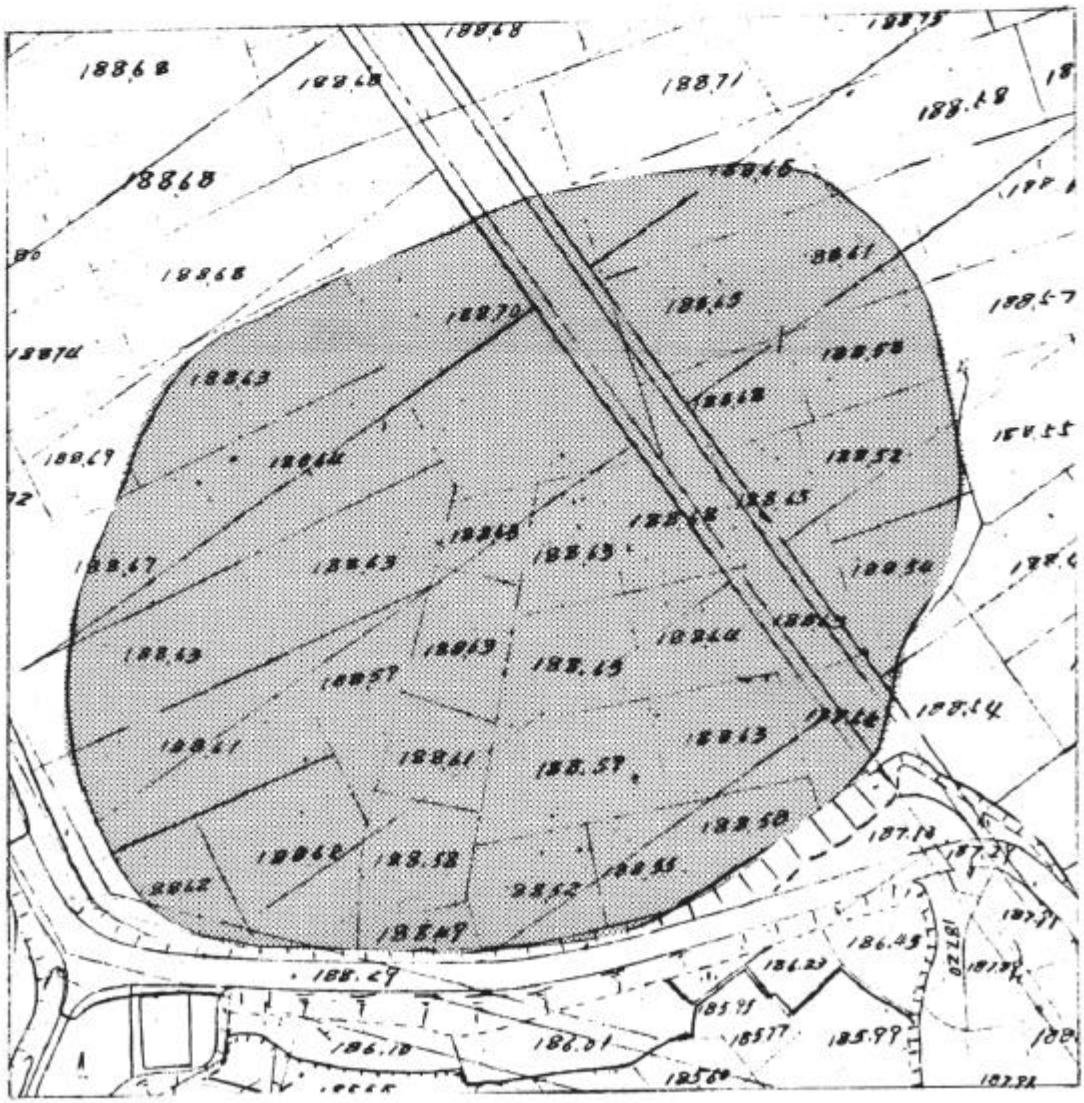
地山までの深さは30～70cmである。上から耕作土（15～20cm），灰褐色土Ｐ（20～30cm），砂質土層（地山）の順である。

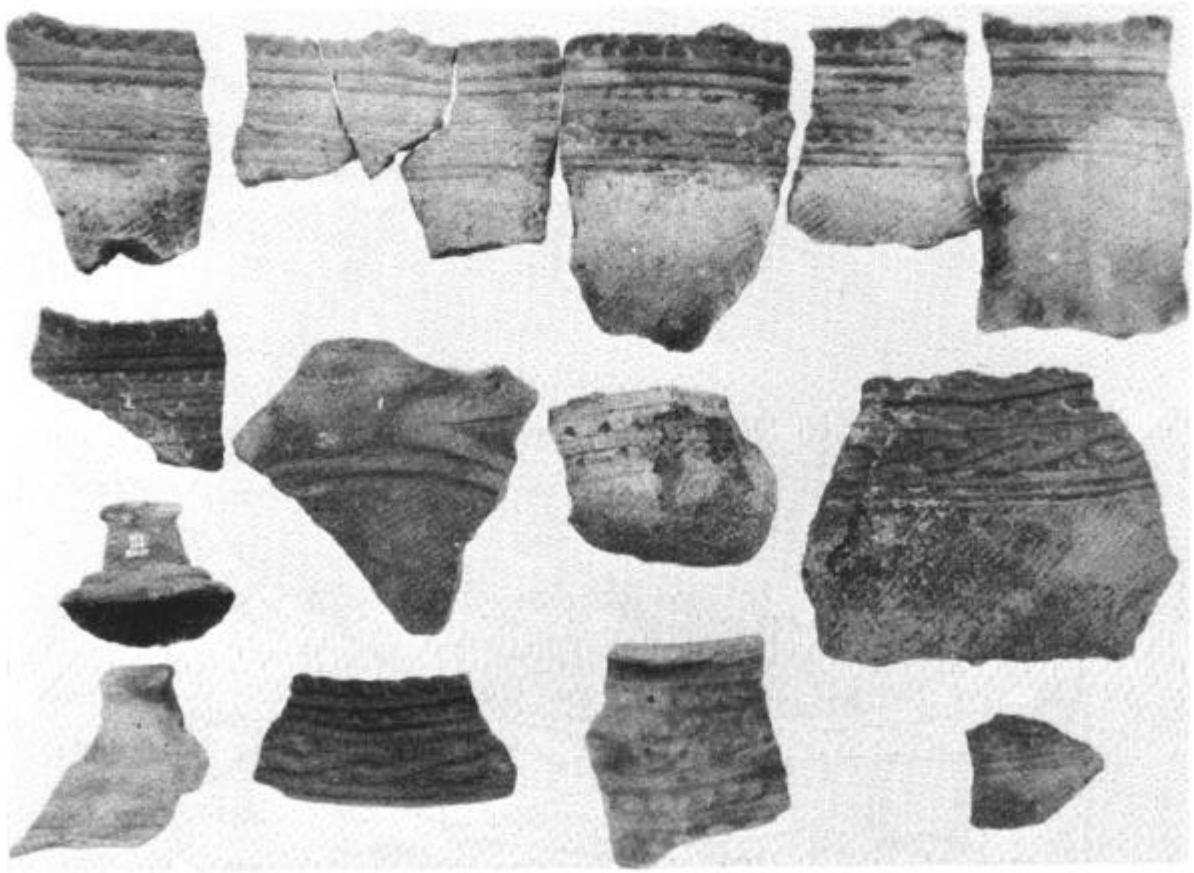
位 置 図

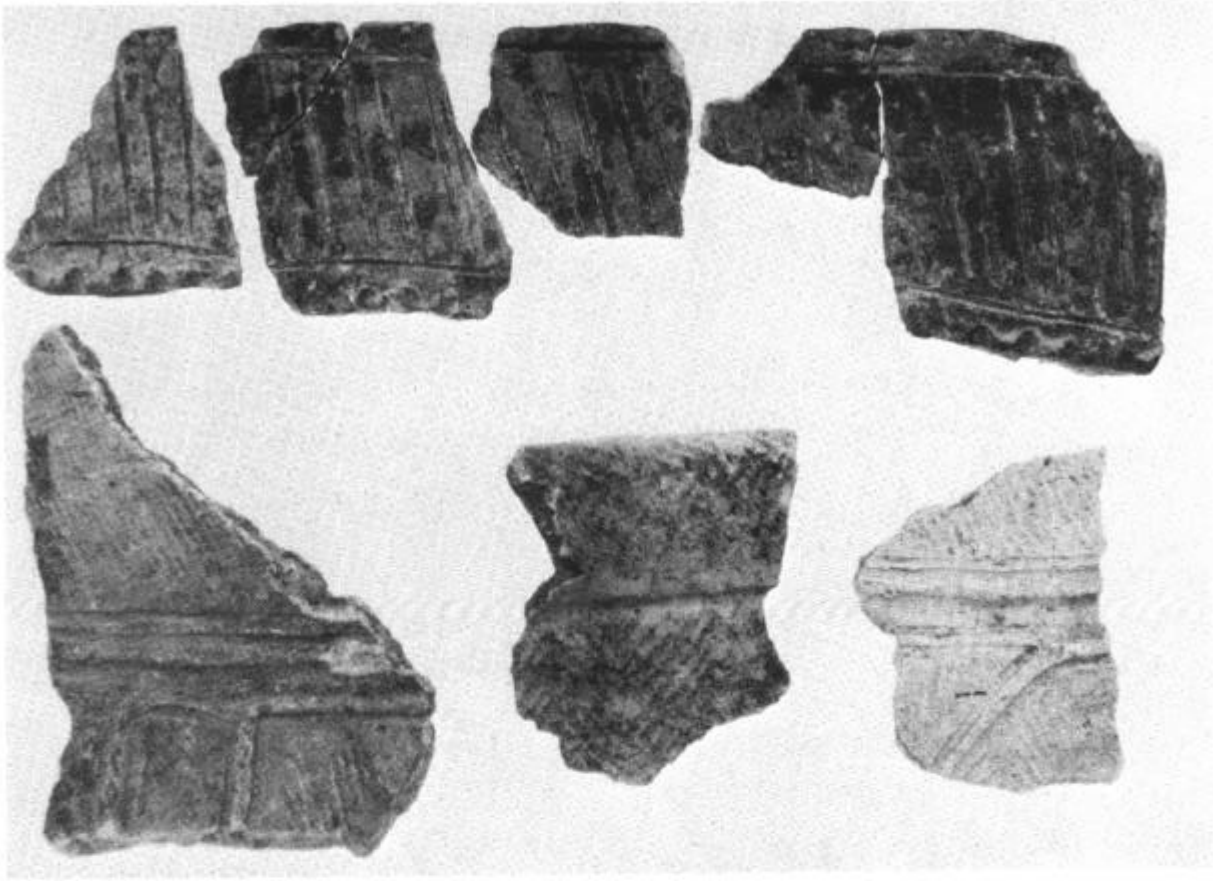
（1/25,000）

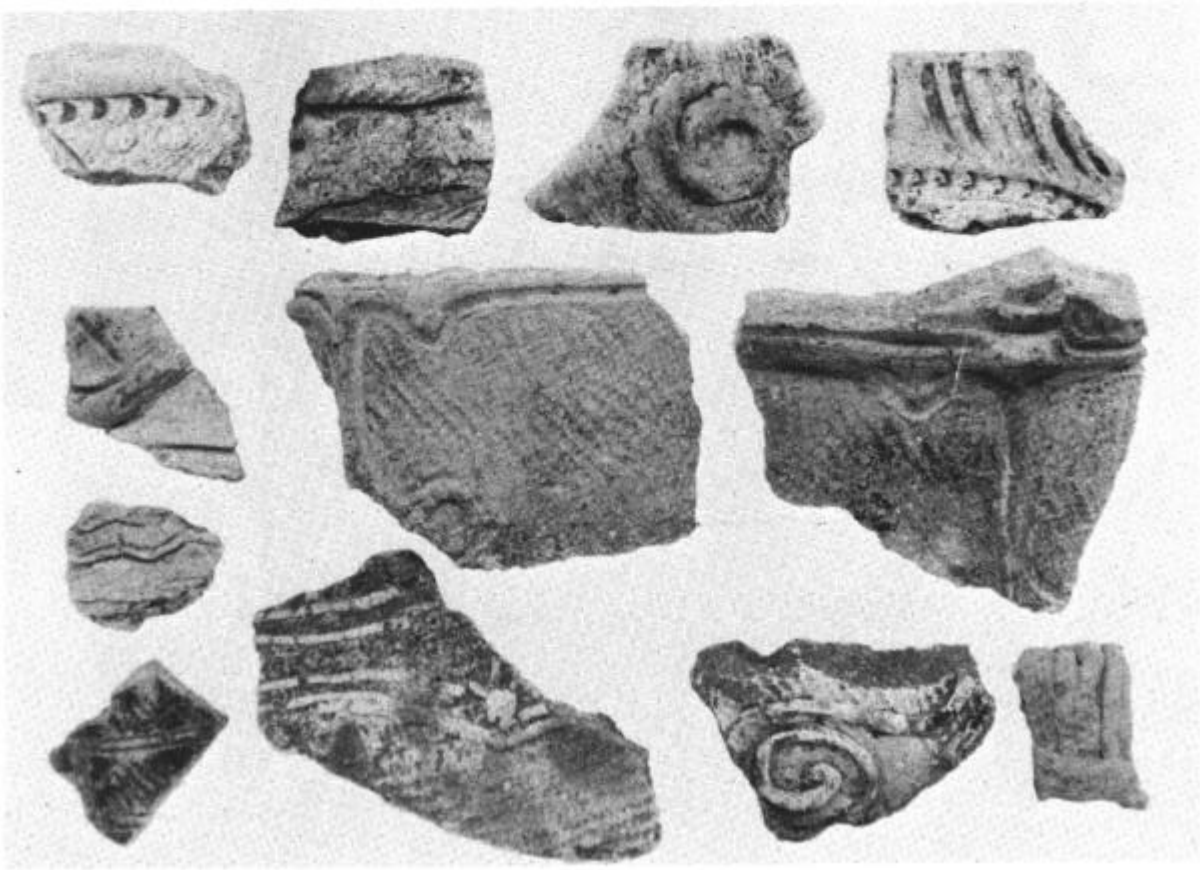


範 囲 図 （1/1,000）









1．遺跡分布図　（1/50,000）

圃場整備地域内（羽後地区）

2．遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	種別	現況	土地所有者	時代	備考
1	源藤四郎沢	雄勝郡羽後町田代字源藤四郎沢25の7	遺物包含地	牧草地	民有	縄文時代	
2	稲荷山	雄勝郡羽後町上到米字稲荷山14	〃	畑地	〃	〃	
3	唐松山Ⅰ	雄勝郡羽後町上到米字唐松山12—1	〃	〃	〃		
4	唐松山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到米字唐松山4—1—2	〃	山林	〃	縄文時代	
5	釜石田	雄勝郡羽後町軽井沢字釜石田地内	遺物散布地	畑地	〃		
6	岩瀬	雄勝郡羽後町軽井沢字岩瀬地内	遺物包含地	畑・山林	〃	縄文時代	
7	向岩瀬	雄勝郡羽後町軽井沢字向岩瀬地内	〃	畑・山林原野	〃	〃	
8	杉沢館跡	雄勝郡羽後町軽井沢字杉沢地内	館跡	原野	〃		
9	滝神渕	〃	遺物包含地	山林	〃		
10	判官沢山	雄勝郡羽後町上到米字判官沢山地内	〃	畑地	〃	縄文時代	
11	九十九沢館跡	雄勝郡羽後町上到米字九十九沢山1，2	館跡	山林	〃		
12	落合A	雄勝郡羽後町軽井沢字落合地内	遺物包含地	畑・山林	〃	縄文時代	
13	落合B	〃	〃	畑・山林原野	〃	〃	
14	唐松山	雄勝郡羽後町上到米字唐松山地内	〃	採草地畑山林	〃	縄文～弥生(?)	
15	田麦沢山	雄勝郡羽後町上到米字田麦沢山2	〃	水田・畑原野	〃	縄文時代	
16	高橋山Ⅱ	雄勝郡羽後町上到米字高橋地内	〃	(育苗)畑	〃	〃	
17	源内沢	雄勝郡羽後町上到米字源内沢地内	〃	畑・山林	〃	〃	

秋田県文化財調査報告書第60集

秋田県遺跡分布調査報告書

昭和54年3月　印刷・発行

編集　秋田県教育委員会
秋田市山王四丁目1—2

印刷　秋田マイクロ写真印刷株式会社